

荒川区  
ひとり親家庭等アンケート  
調査結果報告書

令和7年12月

荒 川 区



# 目 次

## I 調査の概要

1 調査の目的.....	1
2 調査対象.....	1
3 調査期間.....	1
4 調査方法.....	1
5 回収状況.....	1
6 調査結果の表示方法.....	1

## II 調査結果

問1 あなたについてお聞きします。.....	2
問2 同居している家族についてお聞きします。.....	4
問3 お子さんについてお聞きします。.....	6
問4 住まいの状況についてお聞きします。.....	8
問5 あなたの就労の状況についてお聞きします。.....	10
問6 各種資格についてお聞きします。.....	14
問7 あなたの収入についてお聞きします。.....	16
問8 養育費についてお聞きします。.....	18
問9 親子交流についてお聞きします。.....	20
問10 小学生以上のお子さんがいる方にお聞きします。.....	22
問11 お困りのことについてお聞きします。.....	27
問12 ひとり親家庭への支援制度についてお聞きします。.....	30

## III クロス集計

1 年齢について.....	34
2 住まいについて.....	35
3 就労について.....	38
4 収入について.....	42
5 養育費について.....	46
6 親子交流について.....	50
7 小学生以上のお子さんがいる方について.....	51
8 お困りのことについて.....	55

## IV ヒアリング調査の概要

1 調査の目的.....	56
2 調査対象.....	56
3 調査方法.....	56
4 調査結果.....	56



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

今後のひとり親家庭の支援施策策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

## 2 調査対象

ひとり親調査：荒川区在住の児童育成手当受給者（障害手当を除く）

## 3 調査期間

令和7年7月7日～令和7年8月1日

## 4 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

## 5 回収状況

配布数	回収数	回収率
1,328件	580件	43.7%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

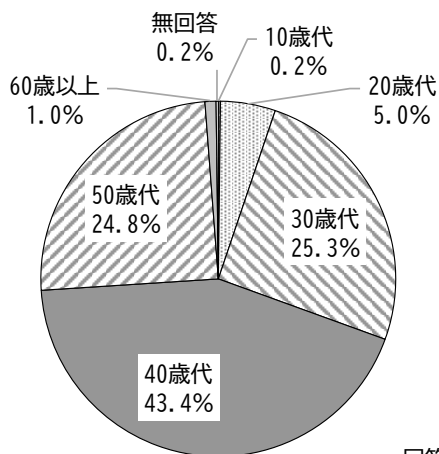
## Ⅱ 調査結果

### 問1 あなたについてお聞きします。

#### ①年齢についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

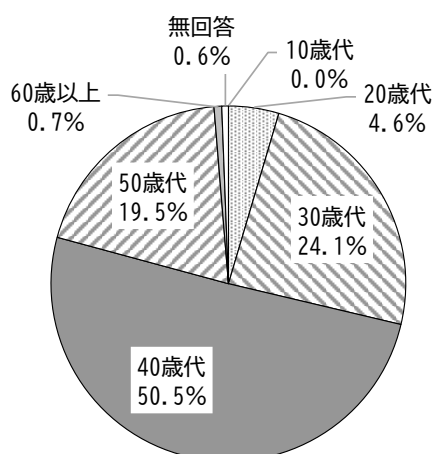
「40 歳代」の割合が 43.4%と最も高く、次いで「30 歳代」の割合が 25.3%、「50 歳代」の割合が 24.8%となっています。(図表1)

図表1 年齢【令和7年度調査】



回答者数 = 580

図表2 年齢【令和4年度調査】

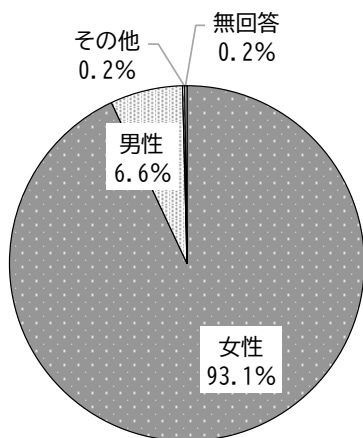


回答者数 = 697

#### ②性別についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

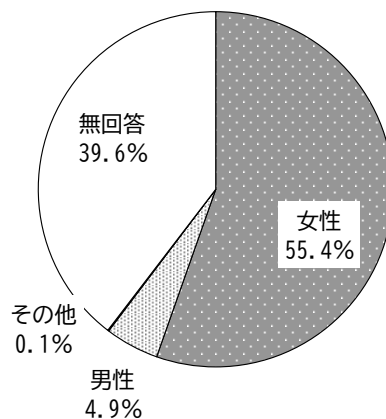
「女性」の割合が 93.1%、「男性」の割合が 6.6%となっています。(図表3)

図表3 性別【令和7年度調査】



回答者数 = 580

図表4 性別【令和4年度調査】

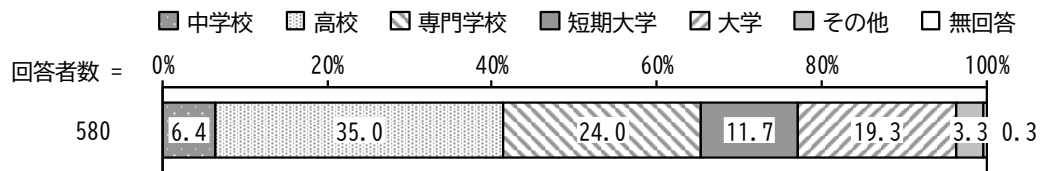


回答者数 = 697

③最終学歴についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

「高校」の割合が35.0%と最も高く、次いで「専門学校」の割合が24.0%、「大学」の割合が19.3%となっています。(図表5)

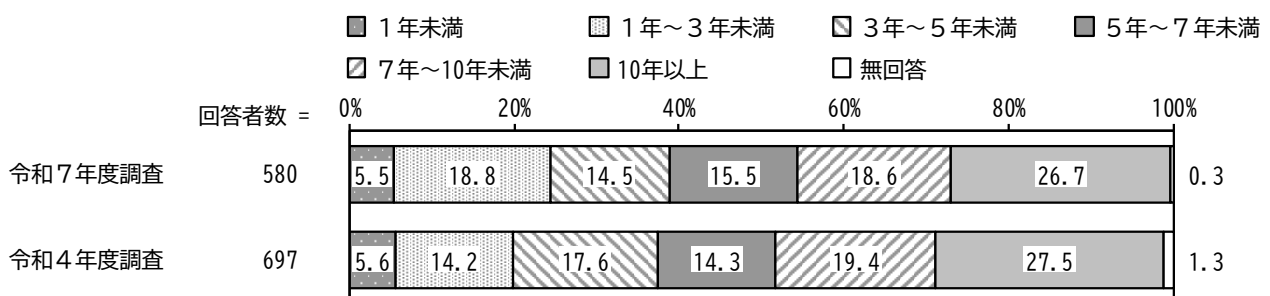
図表5 最終学歴



④ひとり親になってからの年数はどのくらいですか。(あてはまるもの1つに○)

「10年以上」の割合が26.7%と最も高く、次いで「1年～3年未満」の割合が18.8%、「7年～10年未満」の割合が18.6%となっています。(図表6)

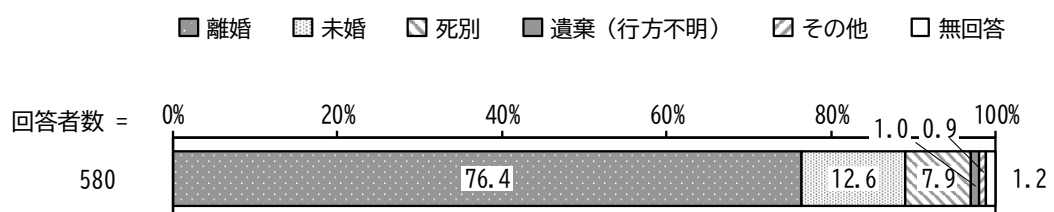
図表6 ひとり親になってからの年数【令和4年度調査との比較】



⑤ひとり親になった理由についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

「離婚」の割合が76.4%と最も高く、次いで「未婚」の割合が12.6%となっています。(図表7)

図表7 ひとり親になった理由



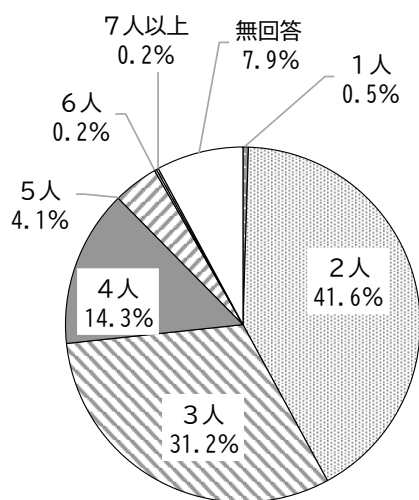
## 問2 同居している家族についてお聞きします。

①あなたの世帯は、あなたを含めて何人家族ですか。(数字を記入)

「2人」の割合が41.6%と最も高く、次いで「3人」の割合が31.2%、「4人」の割合が14.3%となっています。(図表8)

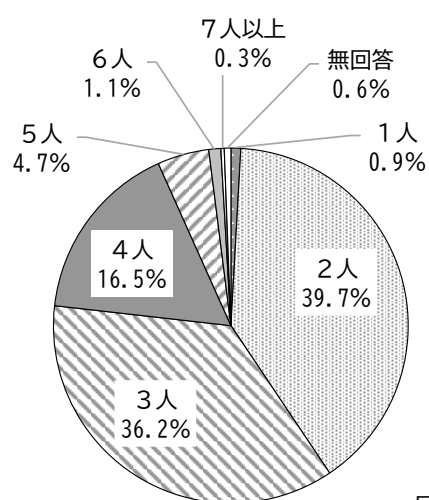
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。(図表9)

図表8 世帯員数【令和7年度調査】



回答者数 = 580

図表9 世帯員数【令和4年度調査】



回答者数 = 697

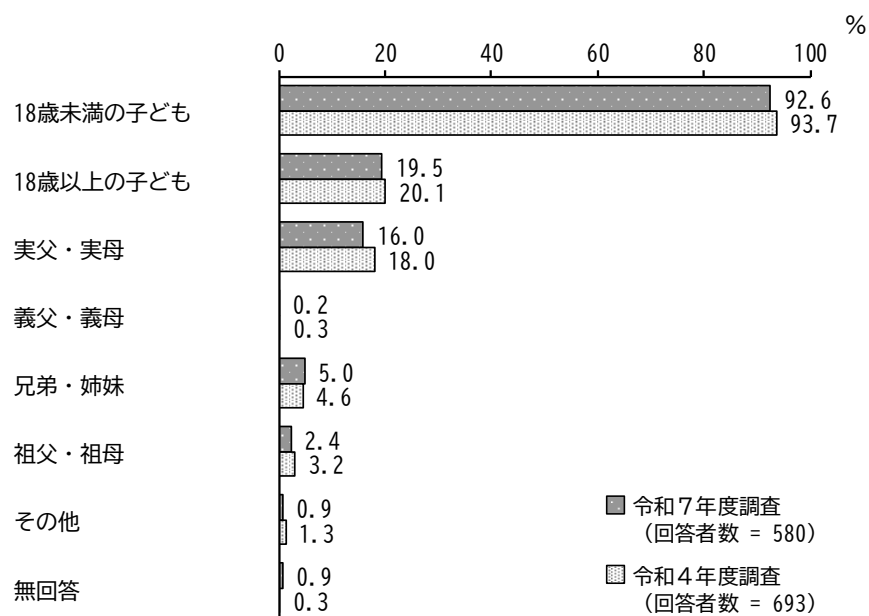


②同居の家族との続柄を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「18歳未満の子ども」の割合が92.6%と最も高く、次いで「18歳以上の子ども」の割合が19.5%、「実父・実母」の割合が16.0%となっています。(図表10)

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表10 同居率（続柄は回答者から見た関係）【令和4年度調査との比較】

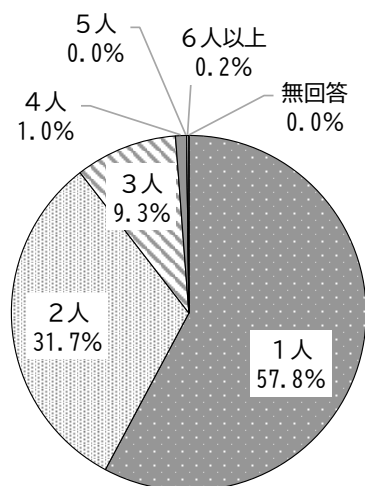


### 問3 お子さんについてお聞きします。

#### ① 同居しているお子さんは何人いますか。(数字を記入)

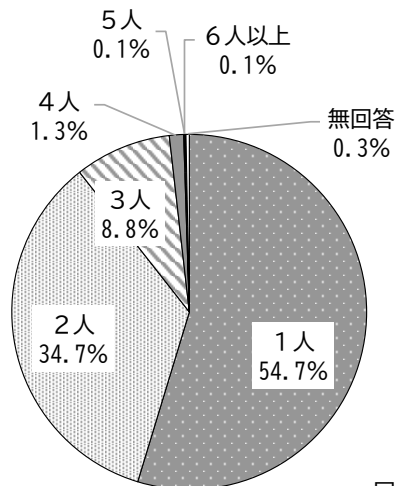
「1人」の割合が57.8%と最も高く、次いで「2人」の割合が31.7%となっています。(図表11)  
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。(図表12)

図表11 同居する子どもの人数【令和7年度調査】



回答者数 = 580

図表12 同居する子どもの人数【令和4年度調査】



回答者数 = 697

- ② 同居しているすべてのお子さんについて、年齢の高い順に年齢、学齢区分をお答えください（それぞれあてはまるもの1つに○、年齢は数字を記入）。
- ※「その他」には、専門学校生、短大生、大学生、就職、アルバイト等を記入。
- ※お子さんが5人以上いる場合は、5人目以降の回答はいただかなくて結構です。

### 【子どもの年齢】

『1人目』『2人目』『3人目』では「15～17歳」の割合が、『4人目』では「6～8歳」の割合が最も高くなっています。（図表13）

令和4年度調査と比較すると、『1人目』『2人目』の年齢層には概ね大きな変化は見られませんが、『3人目』以降の年齢は各層において一部増減が見られます。

図表13 子どもの年齢【令和4年度調査との比較】

単位：％

		0～5歳	6～8歳	9～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上	無回答
1人目	令和7年度調査 回答者数=580	12.4	11.2	12.8	15.7	27.1	18.8	2.1
	令和4年度調査 回答者数=697	10.2	9.8	12.3	16.4	28.4	20.4	2.6
2人目	令和7年度調査 回答者数=245	9.0	11.0	18.0	18.8	30.6	10.6	2.0
	令和4年度調査 回答者数=314	9.2	10.2	14.0	29.0	26.8	9.2	1.6
3人目	令和7年度調査 回答者数=61	14.8	8.2	14.8	24.6	31.1	0.0	6.6
	令和4年度調査 回答者数=72	5.6	15.3	19.4	33.3	25.0	1.4	0.0
4人目	令和7年度調査 回答者数=7	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
	令和4年度調査 回答者数=11	9.1	18.2	36.4	18.2	9.1	9.1	0.0

### 【子どもの学齢区分】

『1人目』『2人目』では「高校生」の割合が、『3人目』では「中学生」の割合が、『4人目』では「小学1～3年生」の割合が最も高くなっています。（図表14）

令和4年度調査と比較すると、『3人目』で「未就学児」の割合が増加し、「小学1～3年生」「小学4～6年生」の割合が減少しています。

図表14 子どもの学齢区分【令和4年度調査との比較】

単位：％

		未就学児	小学1～3年生	小学4～6年生	中学生	高校生	その他	無回答
1人目	令和7年度調査 回答者数=580	13.3	10.9	14.7	17.1	27.8	15.7	0.7
	令和4年度調査 回答者数=697	11.3	11.0	13.1	17.4	29.3	16.8	1.1
2人目	令和7年度調査 回答者数=245	8.6	11.8	19.6	20.8	29.8	7.3	2.0
	令和4年度調査 回答者数=314	9.2	11.8	15.9	29.0	26.4	7.0	0.6
3人目	令和7年度調査 回答者数=61	14.8	8.2	16.4	31.1	24.6	0.0	4.9
	令和4年度調査 回答者数=72	5.6	15.3	22.2	31.9	22.2	1.4	1.4
4人目	令和7年度調査 回答者数=7	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
	令和4年度調査 回答者数=11	9.1	27.3	27.3	18.2	9.1	9.1	0.0

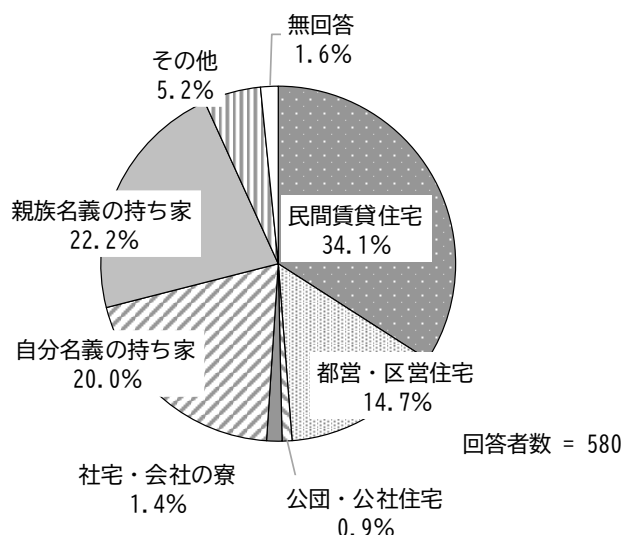
## 問4 住まいの状況についてお聞きします。

### ① 現在の住まいについてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

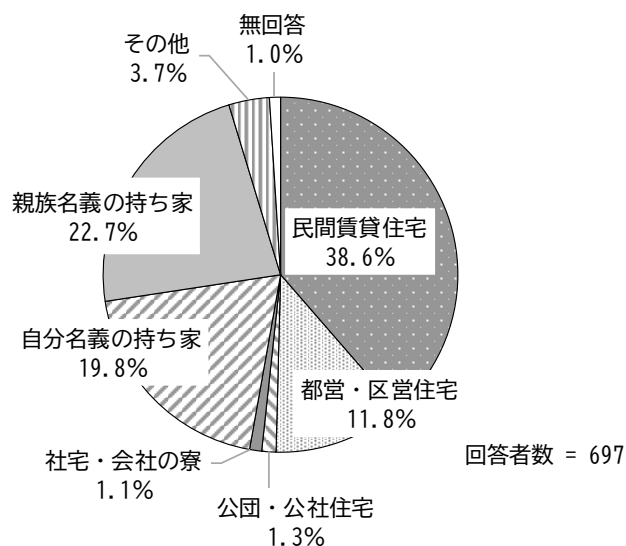
「民間賃貸住宅」の割合が34.1%と最も高く、次いで「親族名義の持ち家」の割合が22.2%、「自分名義の持ち家」の割合が20.0%となっています。(図表15)

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。(図表16)

図表15 現在の住まいの状況【令和7年度調査】



図表16 現在の住まいの状況【令和4年度調査】



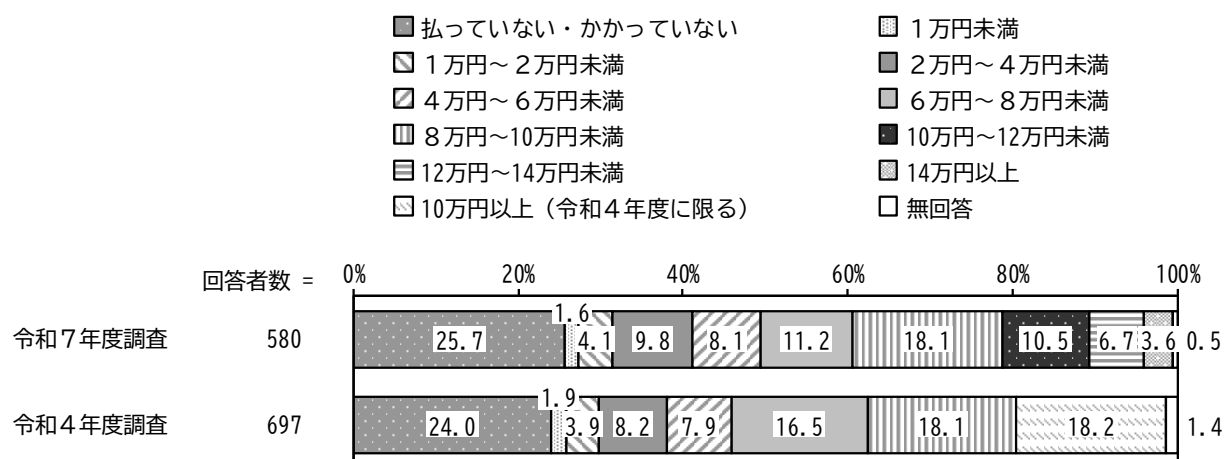
### ② 家賃（月額）や住宅ローンはおいくらですか。(あてはまるもの1つに○)

※住宅ローンのボーナス払い分は毎月の支払額に上乗せしてください。

「払っていない・かかっていない」の割合が25.7%と最も高く、次いで「8万円～10万円未満」の割合が18.1%、「6万円～8万円未満」の割合が11.2%となっています。(図表17)

令和4年度調査と比較すると、「6万円～8万円未満」の割合が減少しています。

図表17 家賃や住宅ローンの月額【令和4年度調査との比較】



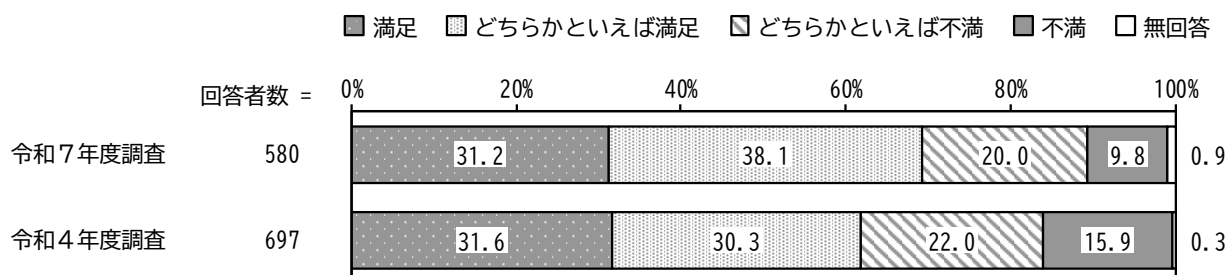
※令和4年度調査では、「10万円～12万円未満」と「12万円～14万円未満」と「14万円以上」が「10万円以上(18.2%)」となっていました

### ③ 現在の住まいに満足していますか。(あてはまるもの1つに○)

「どちらかといえば満足」の割合が38.1%と最も高く、次いで「満足」の割合が31.2%、「どちらかといえば不満」の割合が20.0%となっています。(図表18)

令和4年度調査と比較すると、「どちらかといえば満足」の割合が増加しています。一方、「不満」の割合が減少しています。

図表18 住まいの満足度【令和4年度調査との比較】



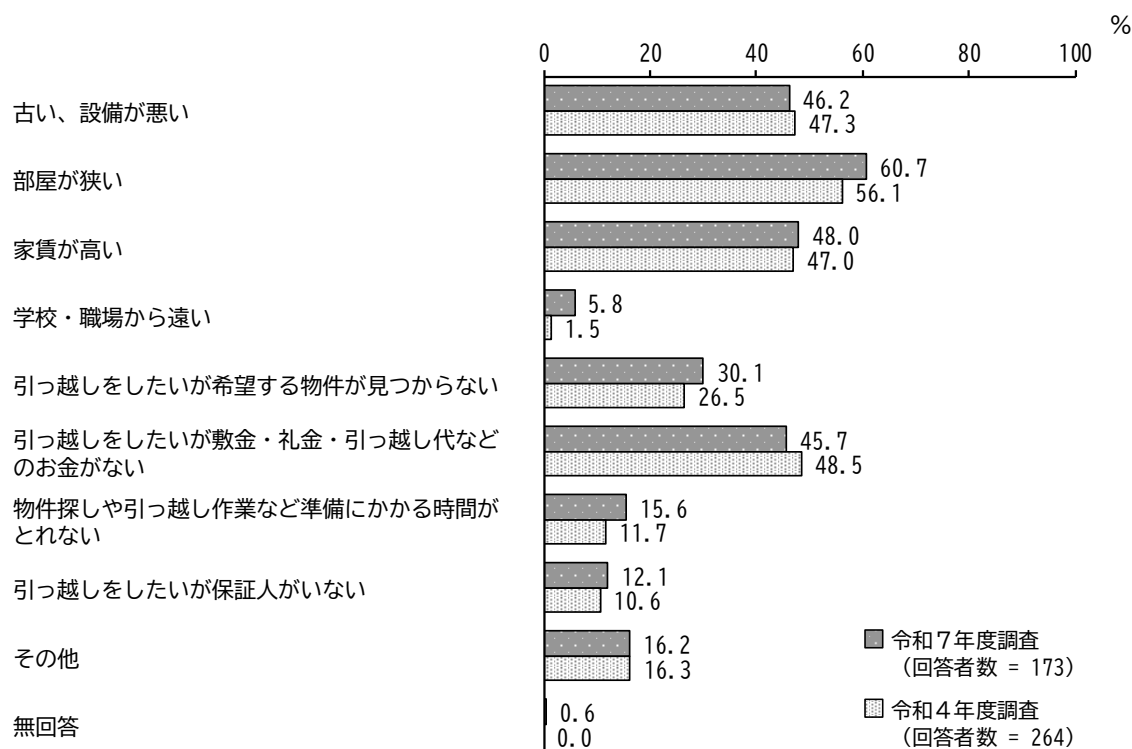
問4③で「どちらかといえば不満」「不満」と答えた方にお聞きします。

#### ③-1 現在の住まいについて不満や不安に思っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「部屋が狭い」の割合が60.7%と最も高く、次いで「家賃が高い」の割合が48.0%、「古い、設備が悪い」の割合が46.2%となっています。(図表19)

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表19 住まいに関する不満の理由【令和4年度調査との比較】

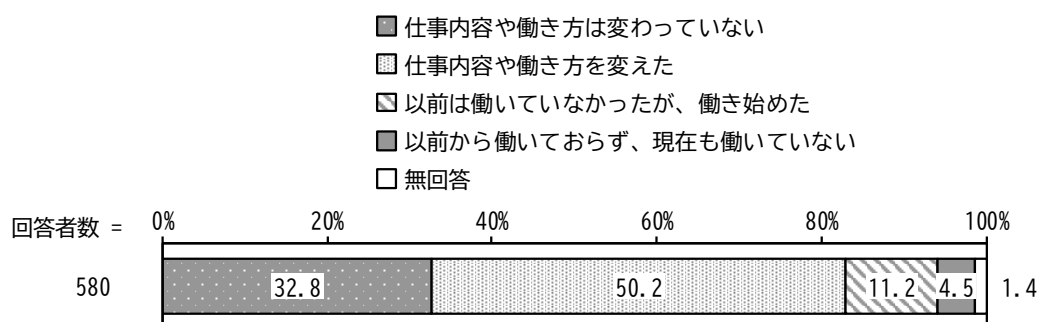


## 問5 あなたの就労の状況についてお聞きします。

- ① ひとり親になった後、以前の働き方から変化はありましたか。  
(あてはまるもの1つに○)。

「仕事内容や働き方を変えた」の割合が 50.2%と最も高く、次いで「仕事内容や働き方は変わっていない」の割合が 32.8%、「以前は働いていなかったが、働き始めた」の割合が 11.2%となっています。(図表 20)

図表 20 ひとり親になった後の働き方の変化状況

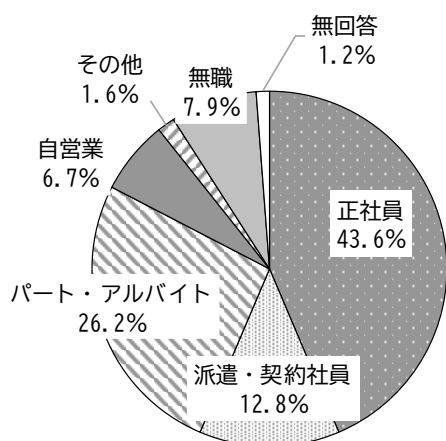


- ② 現在の就労状況についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

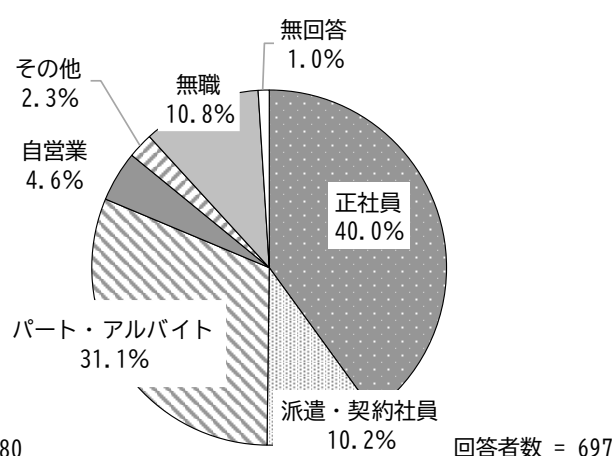
「正社員」の割合が 43.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が 26.2%、「派遣・契約社員」の割合が 12.8%となっています。(図表 21)

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。(図表 22)

図表 21 就労状況【令和7年度調査】



図表 22 就労状況【令和4年度調査】

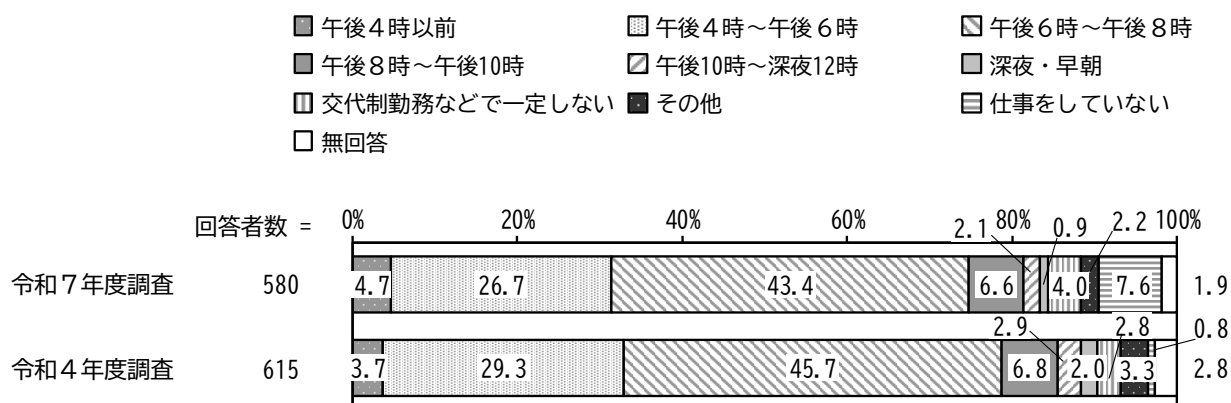


③ 帰宅時間（テレワーク、自営業の場合は終業時間）は何時ごろですか。  
（あてはまるもの1つに○）

「午後6時～午後8時」の割合が43.4%と最も高く、次いで「午後4時～午後6時」の割合が26.7%となっています。（図表23）

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

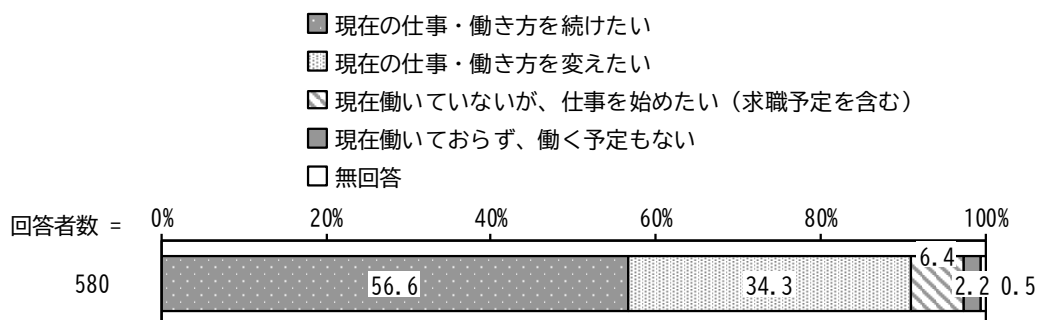
図表23 帰宅時間【令和4年度調査との比較】



④ 現在の仕事・働き方について変えたいと思いますか。

「現在の仕事・働き方を続けたい」の割合が56.6%と最も高く、次いで「現在の仕事・働き方を変えたい」の割合が34.3%となっています。（図表24）

図表24 現在の仕事・働き方の変更希望

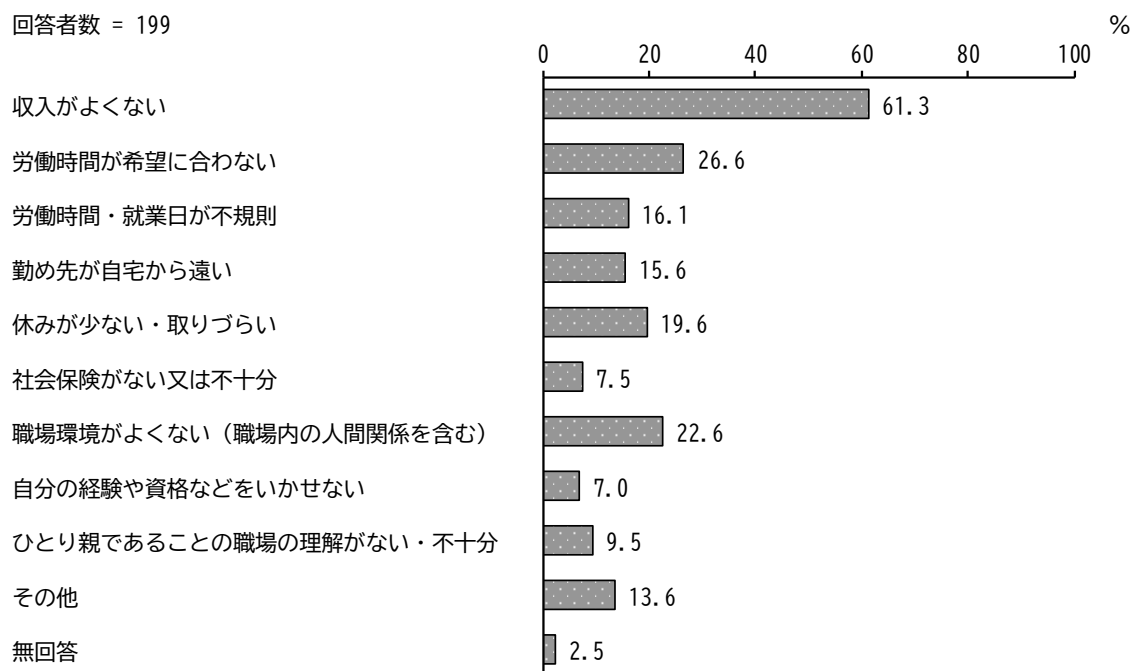


問5④で「現在の仕事・働き方を変えたい」と答えた方にお聞きします。

④－1 仕事・働き方を変えたい理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「収入がよくない」の割合が61.3%と最も高く、次いで「労働時間が希望に合わない」の割合が26.6%、「職場環境がよくない（職場内の人間関係を含む）」の割合が22.6%となっています。(図表25)

図表25 現在の仕事・働き方の変更希望理由



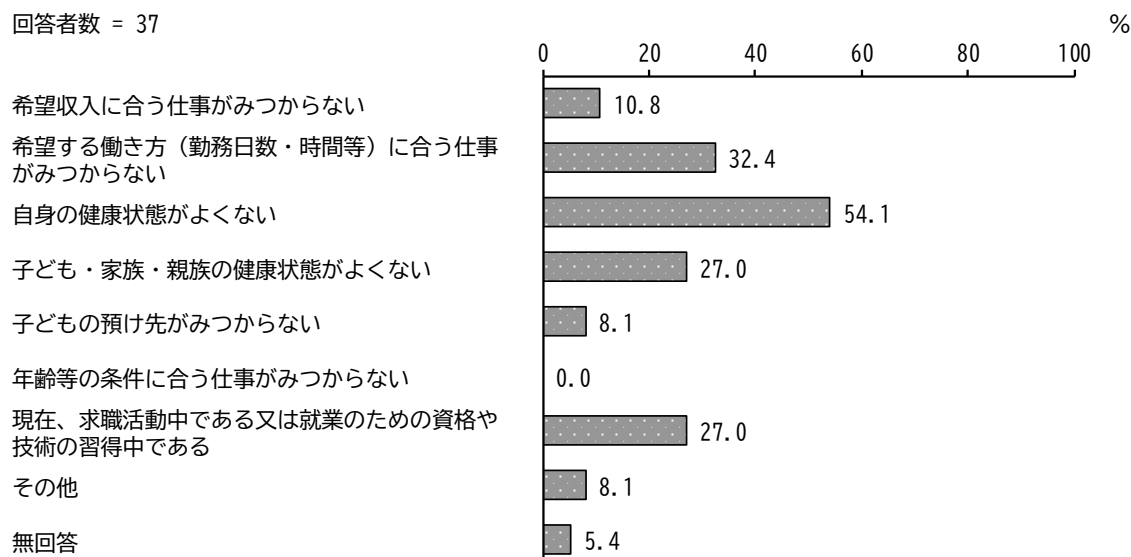


問5④で「現在働いていないが、仕事を始めたい（求職予定を含む）」と答えた方にお聞きします。

#### ④－2 現在働いていない理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「自身の健康状態がよくない」の割合が 54.1%と最も高く、次いで「希望する働き方（勤務日数・時間等）に合う仕事が見つからない」の割合が 32.4%、「子ども・家族・親族の健康状態がよくない」、「現在、求職活動中である又は就業のための資格や技術の習得中である」の割合が 27.0%となっています。（図表 26）

図表 26 働いていない理由

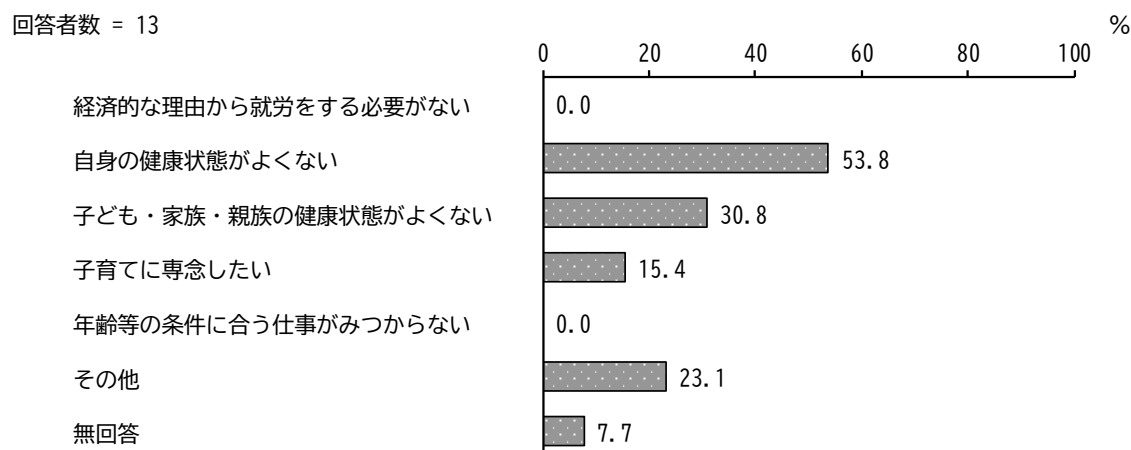


問5④で「現在働いておらず、働く予定もない」と答えた方にお聞きします。

#### ④－3 今後も働く予定がない理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「自身の健康状態がよくない」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「子ども・家族・親族の健康状態がよくない」の割合が 30.8%、「子育てに専念したい」の割合が 15.4%となっています。（図表 27）

図表 27 今後も働く予定がない理由

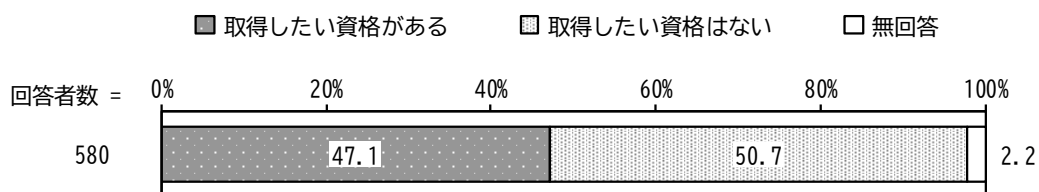


## 問6 各種資格についてお聞きします。

### ① 取得したい資格はありますか。(あてはまるもの1つに○)

「取得したい資格がある」の割合が47.1%、「取得したい資格はない」の割合が50.7%となっています。(図表28)

図表28 取得したい資格の有無



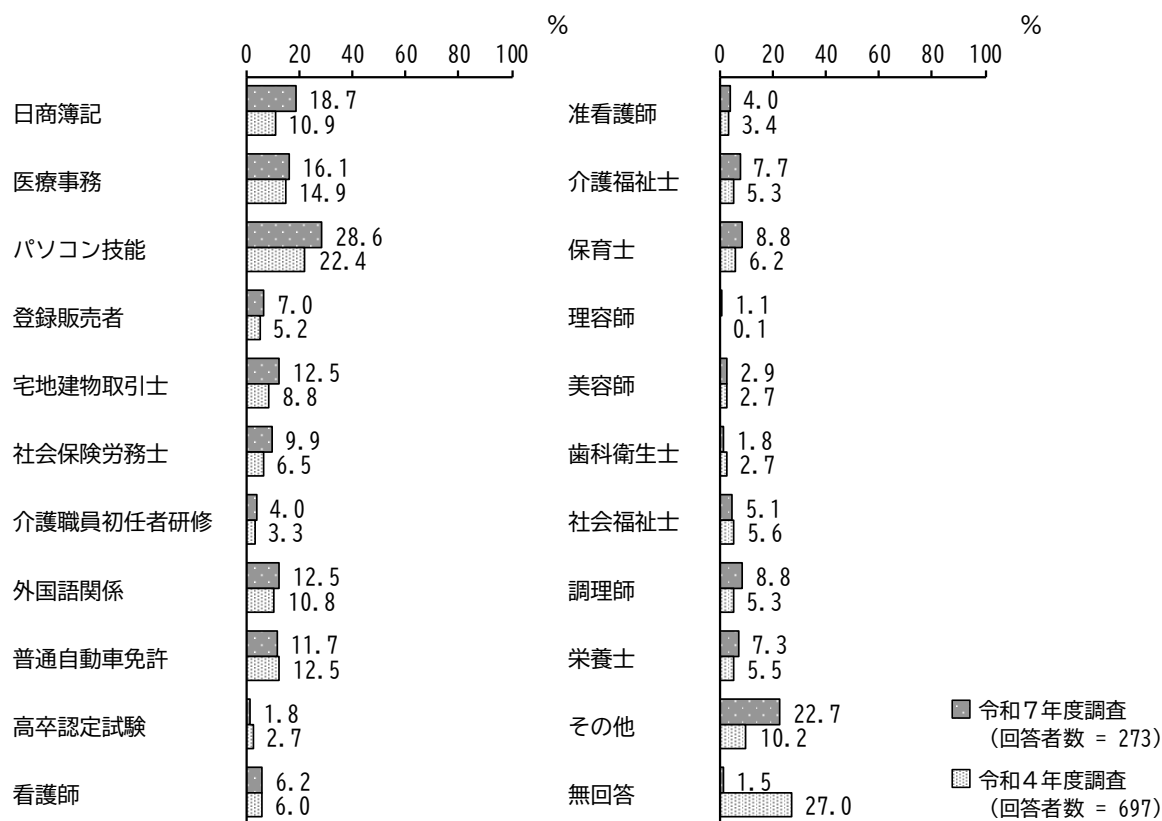
問6①で「取得したい資格がある」と答えた方にお聞きします。

### ②-1 取得したい資格を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「パソコン技能」の割合が28.6%と最も高く、次いで「日商簿記」の割合が18.7%、「医療事務」の割合が16.1%となっています。(図表29)

令和4年度調査と比較すると、「日商簿記」「パソコン技能」の割合が増加しています。

図表29 取得したい資格【令和4年度調査との比較】

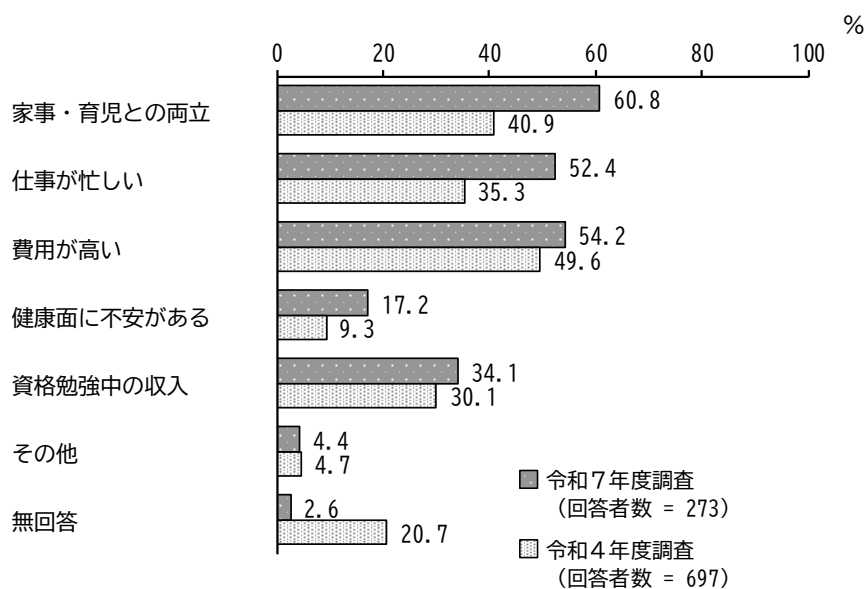


## ②－２ 資格を取得する際に不安なことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「家事・育児との両立」の割合が60.8%と最も高く、次いで「費用が高い」の割合が54.2%、「仕事が忙しい」の割合が52.4%となっています。(図表30)

令和4年度調査と比較すると、特に「家事・育児との両立」「仕事が忙しい」「健康面に不安がある」の割合が増加しています。

図表30 資格を取得する際に不安なこと【令和4年度調査との比較】



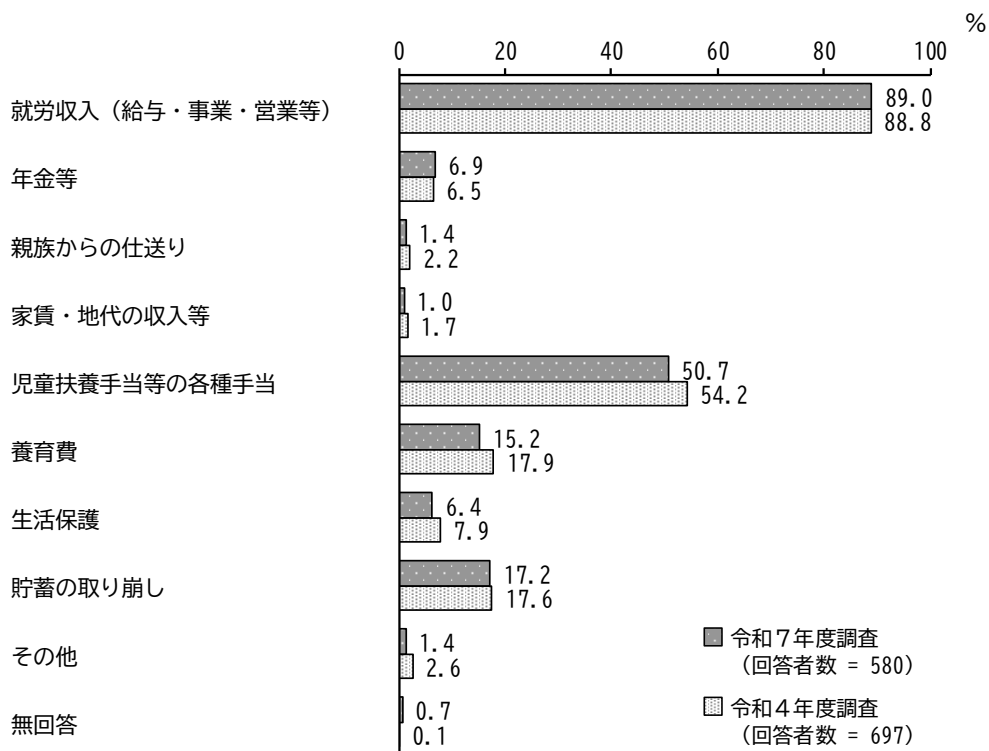
## 問7 あなたの収入についてお聞きます。

### ① 収入の種類は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「就労収入（給与・事業・営業等）」の割合が89.0%と最も高く、次いで「児童扶養手当等の各種手当」の割合が50.7%、「貯蓄の取り崩し」の割合が17.2%となっています。（図表31）

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表31 収入の種類【令和4年度調査との比較】



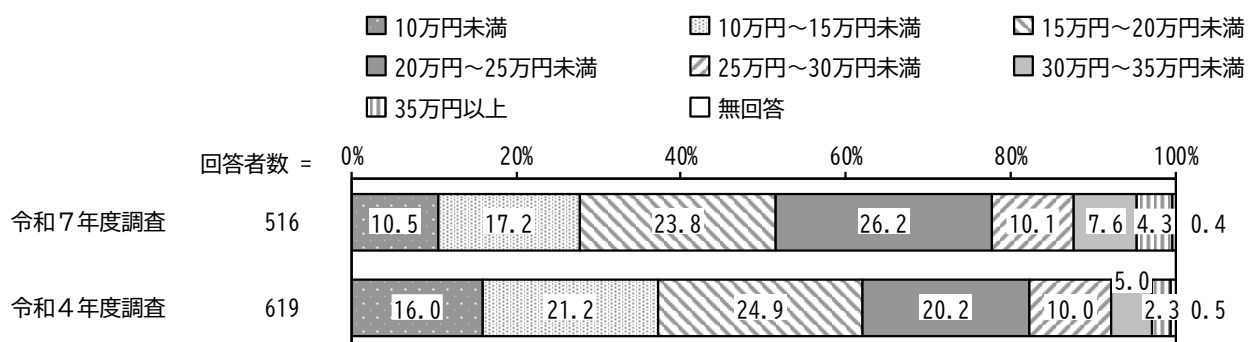
問7①で「就労収入（給与・事業・営業等）」と答えた方にお聞きます。

①－1 月額の収入はいくらですか（手取り）（あてはまるもの1つに○）

「20 万円～25 万円未満」の割合が 26.2%と最も高く、次いで「15 万円～20 万円未満」の割合が 23.8%、「10 万円～15 万円未満」の割合が 17.2%となっています。（図表 32）

令和4年度調査と比較すると、「20 万円～25 万円未満」の割合が増加しています。一方、「10 万円未満」の割合が減少しています。

図表 32 月額の収入【令和4年度調査との比較】

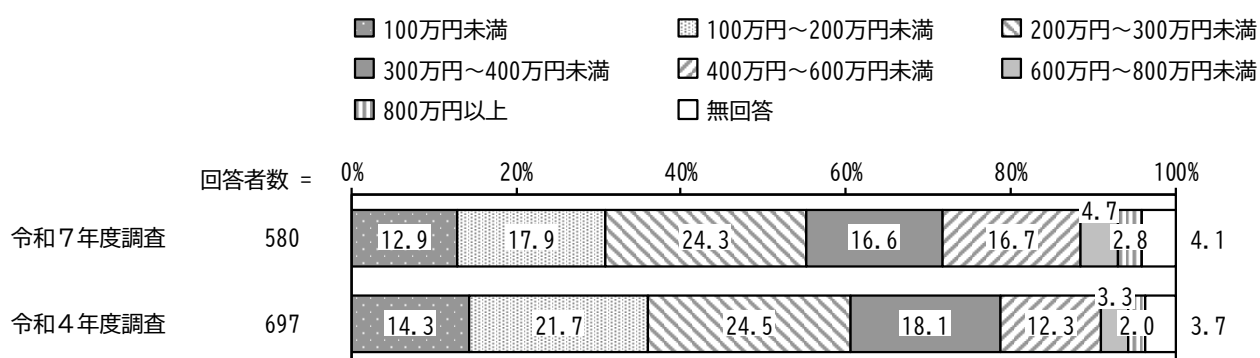


② あなたの世帯全員の年収はいくらですか。（あてはまるもの1つに○）

「200 万円～300 万円未満」の割合が 24.3%と最も高く、次いで「100 万円～200 万円未満」の割合が 17.9%、「400 万円～600 万円未満」の割合が 16.7%となっています。（図表 33）

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 33 世帯全員の年収【令和4年度調査との比較】



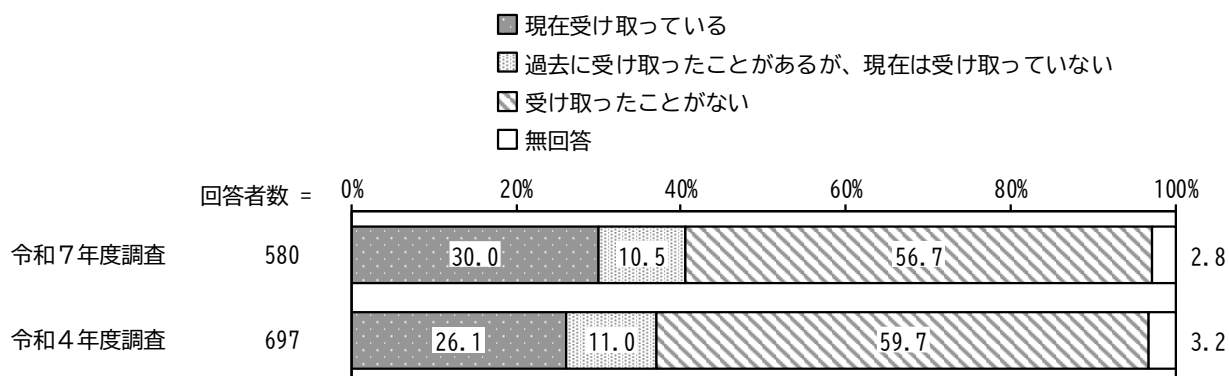
## 問8 養育費についてお聞きします。

### ① お子さんの親（相手方）から養育費を受け取っていますか。（あてはまるもの1つに○）

「現在受け取っている」の割合が30.0%、「過去に受け取ったことがあるが、現在は受け取っていない」の割合が10.5%、「受け取ったことがない」の割合が56.7%となっています。（図表34）

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表34 養育費の受け取り状況【令和4年度調査との比較】



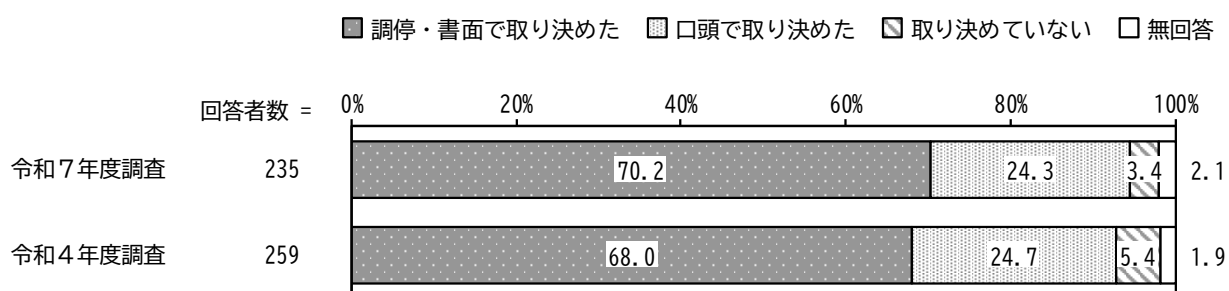
問8①で「現在受け取っている」「過去に受け取ったことがあるが、現在は受け取っていない」と答えられた方にお聞きします。

### ①-1 養育費について取り決めをしましたか。（あてはまるもの1つに○）

「調停・書面で取り決めた」の割合が70.2%、「口頭で取り決めた」の割合が24.3%、「取り決めていない」の割合が3.4%となっています。（図表35）

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表35 養育費の取り決め状況【令和4年度調査との比較】

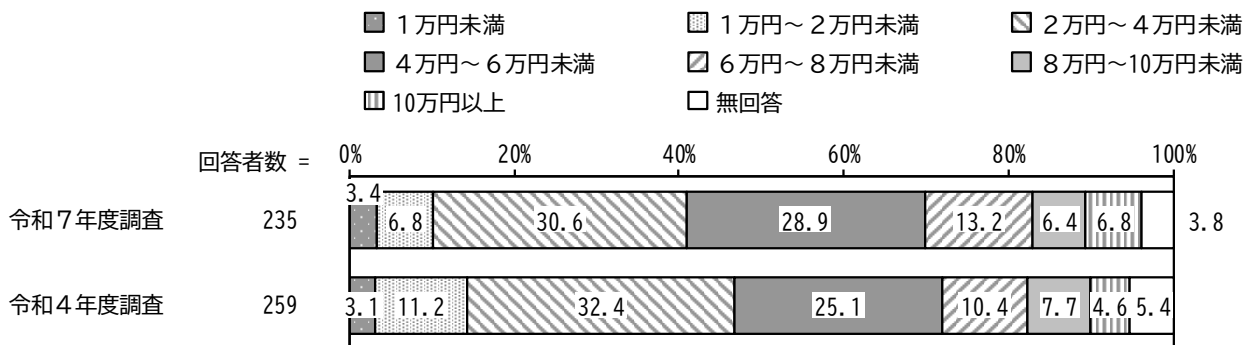


## ①－２ 養育費は月額いくらですか。(あてはまるもの１つに○)

「２万円～４万円未満」の割合が 30.6%と最も高く、次いで「４万円～６万円未満」の割合が 28.9%、「６万円～８万円未満」の割合が 13.2%となっています。(図表 36)

令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 36 養育費の月額【令和４年度調査との比較】



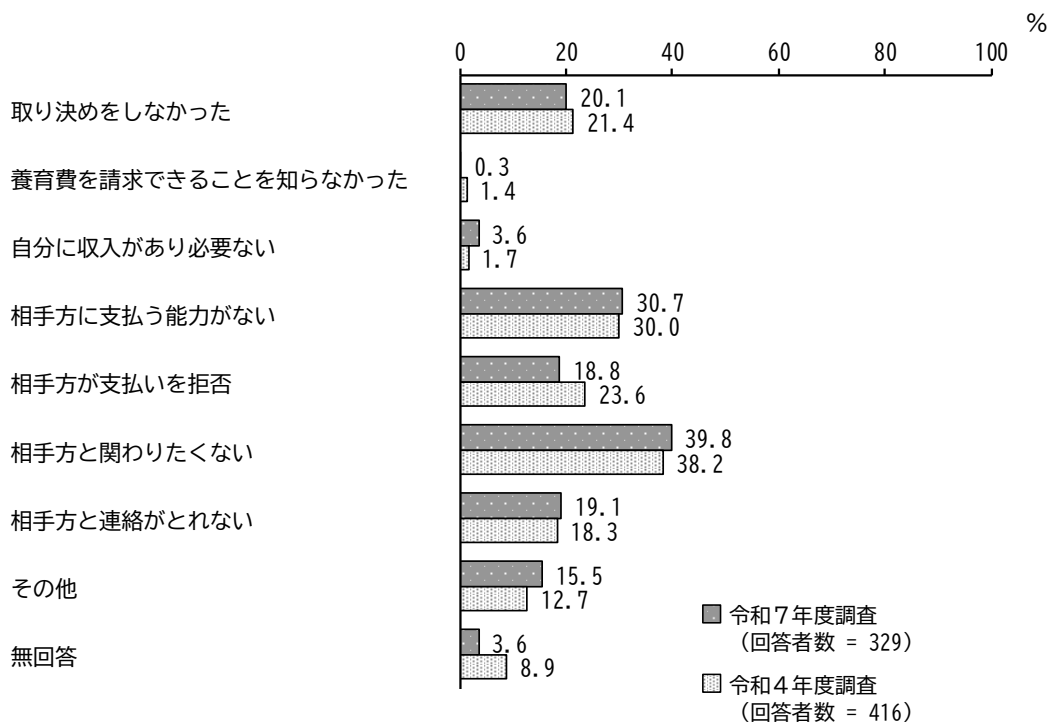
問８①で養育費を「受け取ったことがない」方にお聞きします。

## ①－３ 養育費を受け取っていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「相手方と関わりたくない」の割合が 39.8%と最も高く、次いで「相手方に支払う能力がない」の割合が 30.7%、「取り決めたしなかった」の割合が 20.1%となっています。(図表 37)

令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 37 養育費を受け取っていない理由【令和４年度調査との比較】

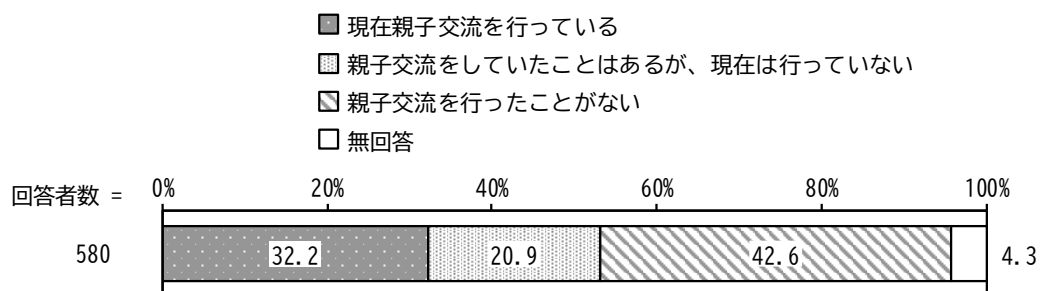


## 問9 親子交流についてお聞きします。

- ① 現在、お子さんの親（相手方）とお子さんの親子交流はありますか。  
（あてはまるもの1つに○）

「現在親子交流を行っている」の割合が32.2%、「親子交流をしていたことはあるが、現在は行っていない」の割合が20.9%、「親子交流を行っていない」の割合が42.6%となっています。（図表38）

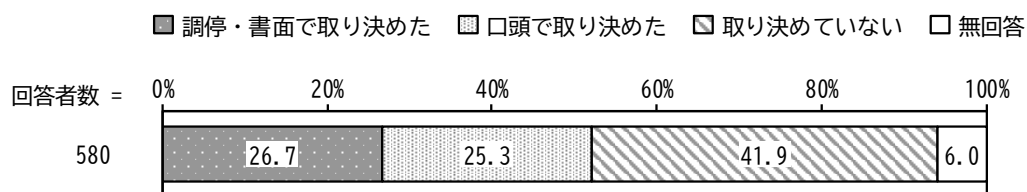
図表38 親（相手方）と子どもの親子交流



- ② 親子交流について取り決めをしましたか。（あてはまるもの1つに○）

「調停・書面で取り決めた」の割合が26.7%、「口頭で取り決めた」の割合が25.3%、「取り決めていない」の割合が41.9%となっています。（図表39）

図表39 親子交流の取り決め



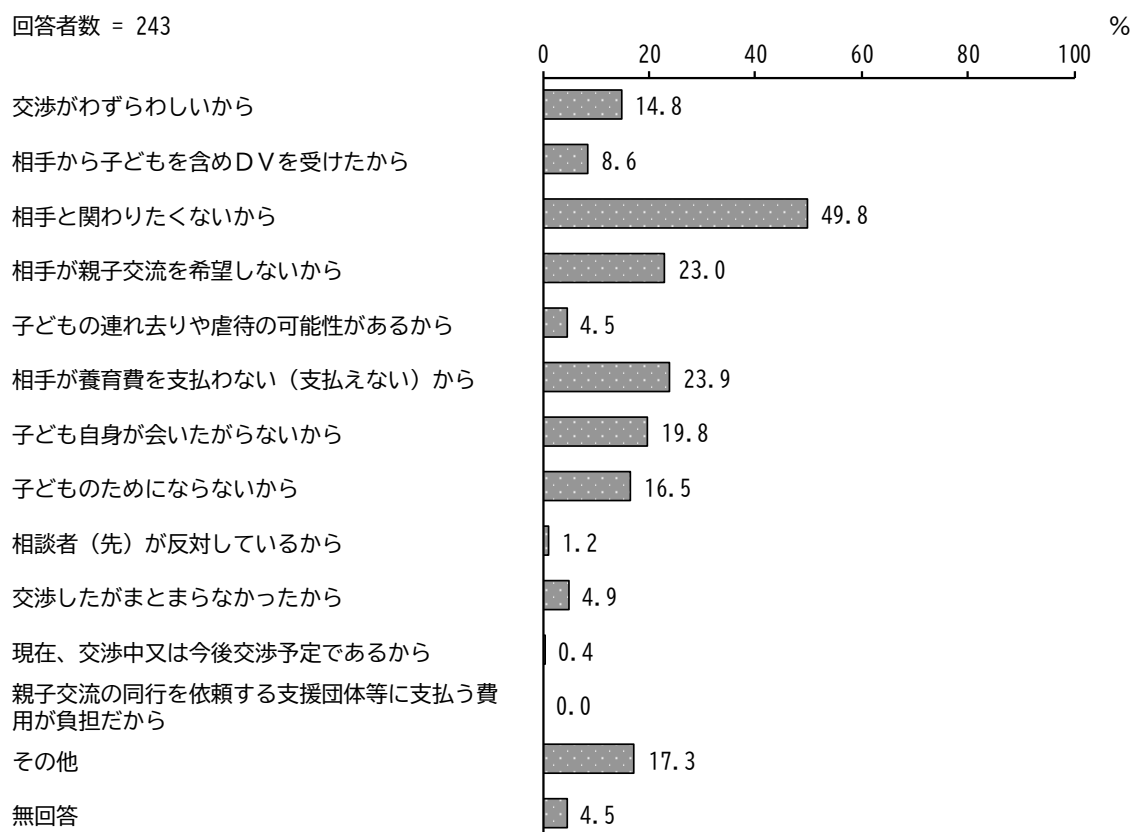


問9②で「取り決めていない」と答えた方にお聞きします。

②－1 あなたが親子交流の取り決めをしていない理由を教えてください。  
(あてはまるものすべてに○)

「相手と関わりたくないから」の割合が49.8%と最も高く、次いで「相手が養育費を支払わない（支払えない）から」の割合が23.9%、「相手が親子交流を希望しないから」の割合が23.0%となっています。（図表40）

図表40 親子交流の取り決めをしていない理由

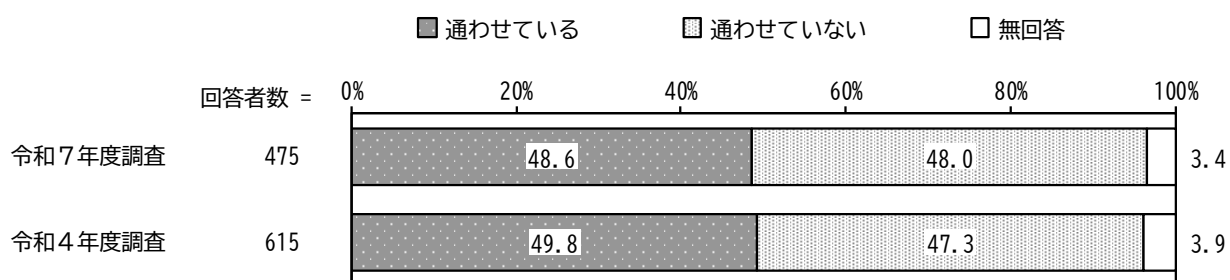


## 問 10 小学生以上のお子さんがいる方にお聞きします。

### ① お子さんの学習塾や習い事についてお聞きします。(あてはまるものすべてに○)

「通わせている」の割合が 48.6%、「通わせていない」の割合が 48.0%となっています。(図表 41)  
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 41 学習塾や習い事【令和4年度調査との比較】

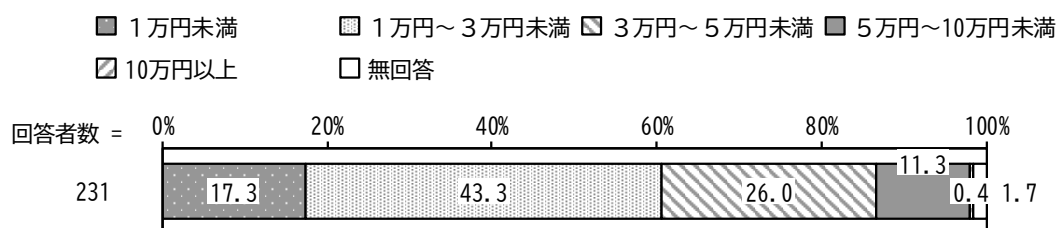


問 10①で「通わせている」と答えた方にお聞きします。

### ①－1 月々の塾や習い事にかかる費用は総額いくらですか。(あてはまるもの1つに○)

「1万円～3万円未満」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「3万円～5万円未満」の割合が 26.0%、「1万円未満」の割合が 17.3%となっています。(図表 42)

図表 42 月々の塾や習い事にかかる費用



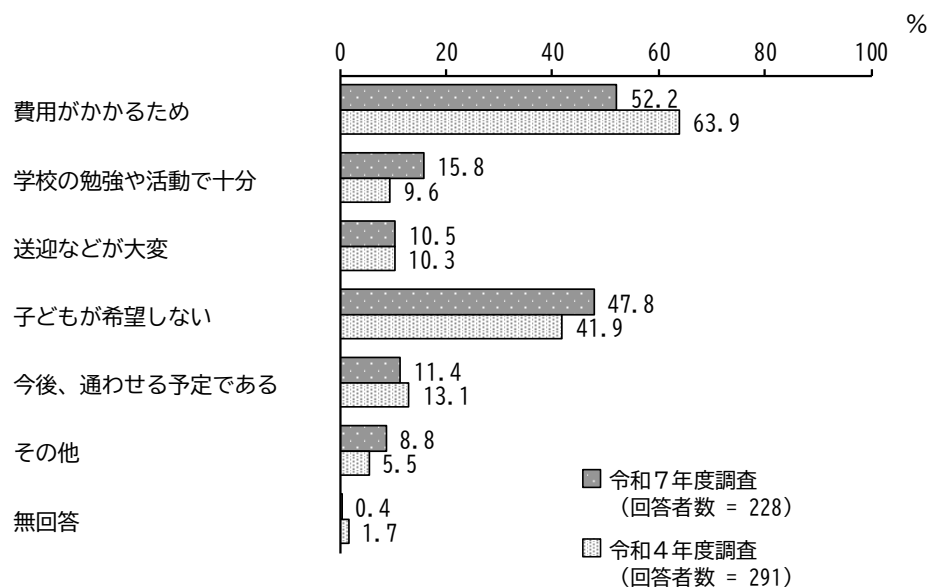
問10①で「通わせていない」と答えた方にお聞きします。

①－2 通わせていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「費用がかかるため」の割合が52.2%と最も高く、次いで「子どもが希望しない」の割合が47.8%、「学校の勉強や活動で十分」の割合が15.8%となっています。(図表43)

令和4年度調査と比較すると、「学校の勉強や活動で十分」「子どもが希望しない」の割合が増加しています。一方、「費用がかかるため」の割合が減少しています。

図表43 通わせていない理由【令和4年度調査との比較】

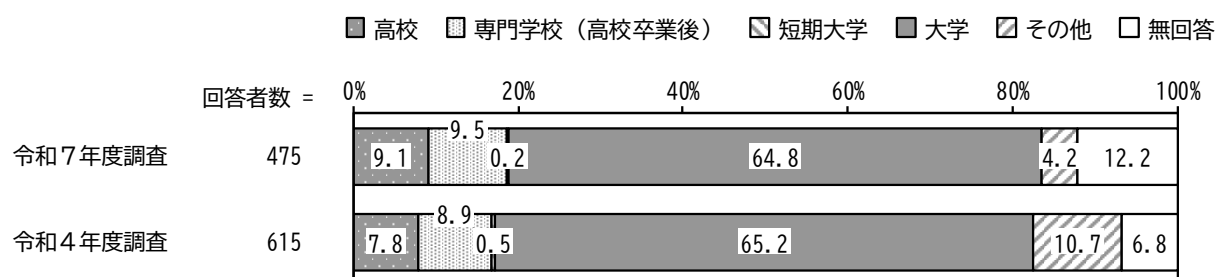


② 希望とするお子さんの最終進学目標はどれですか。(あてはまるもの1つに○)

「大学」の割合が64.8%と最も高くなっています。(図表44)

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表44 子どもの最終進学目標【令和4年度調査との比較】

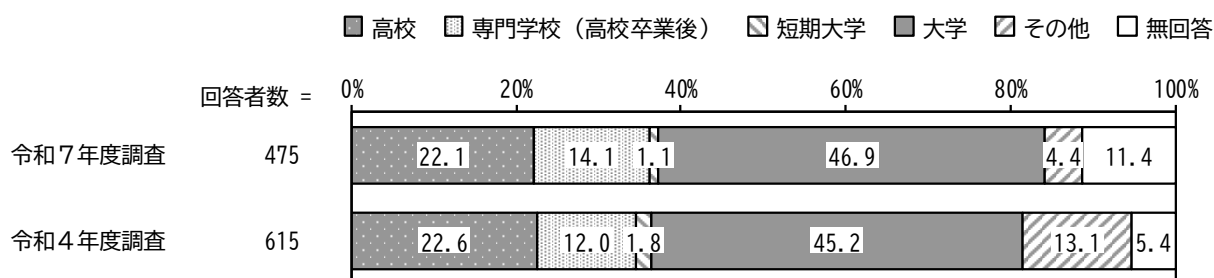


③ 実際に可能だと思われるお子さんの最終進学目標はどれですか。  
(あてはまるもの1つに○)

「大学」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「高校」の割合が 22.1%、「専門学校（高校卒業後）」の割合が 14.1%となっています。（図表 45）

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 45 可能だと思われる子どもの最終進学目標【令和4年度調査との比較】

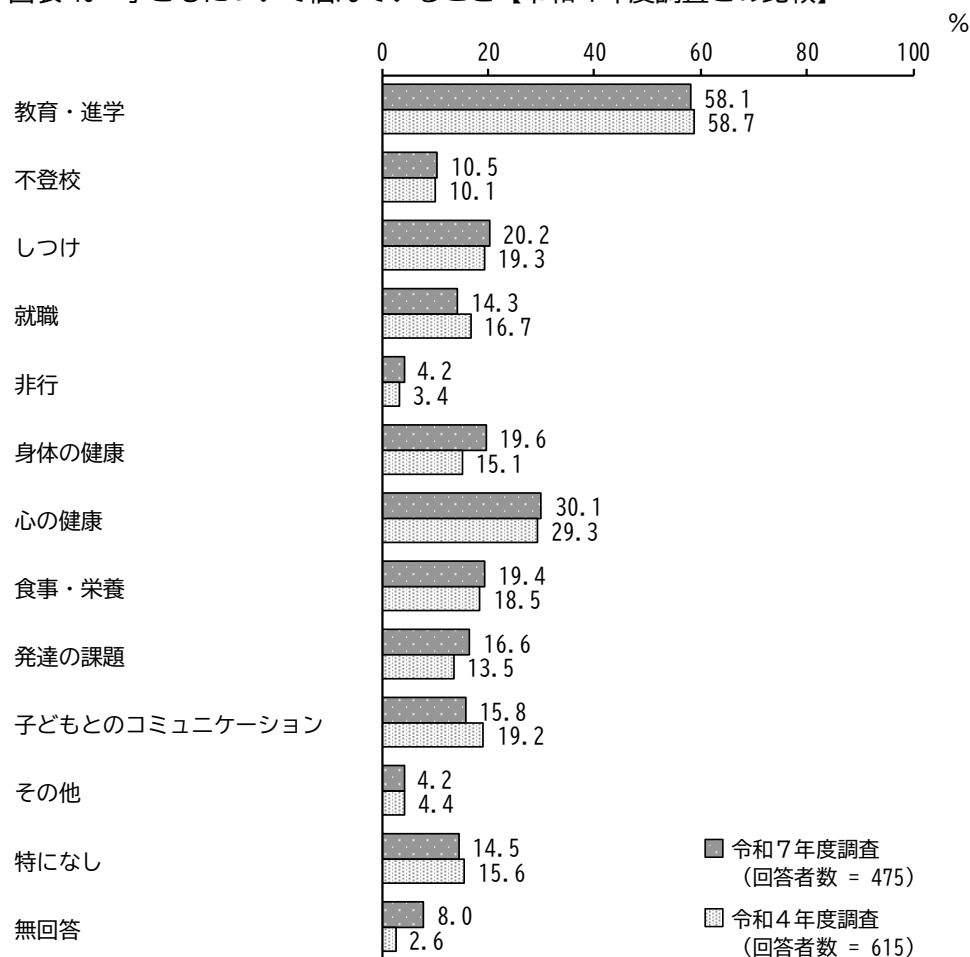


④ お子さんについて悩んでいることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「教育・進学」の割合が58.1%と最も高く、次いで「心の健康」の割合が30.1%、「しつけ」の割合が20.2%となっています。（図表46）

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表46 子どもについて悩んでいること【令和4年度調査との比較】



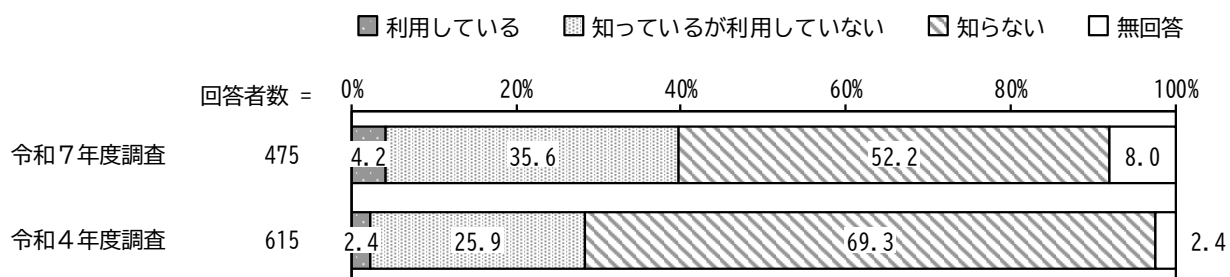
⑤ 次の居場所事業をご存じですか。（それぞれあてはまるもの1つに○）

a 子どもの居場所づくり事業

「利用している」の割合が4.2%、「知っているが利用していない」の割合が35.6%、「知らない」の割合が52.2%となっています。（図表47）

令和4年度調査と比較すると、「知っているが利用していない」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。

図表47 子どもの居場所づくり事業の認知度【令和4年度調査との比較】

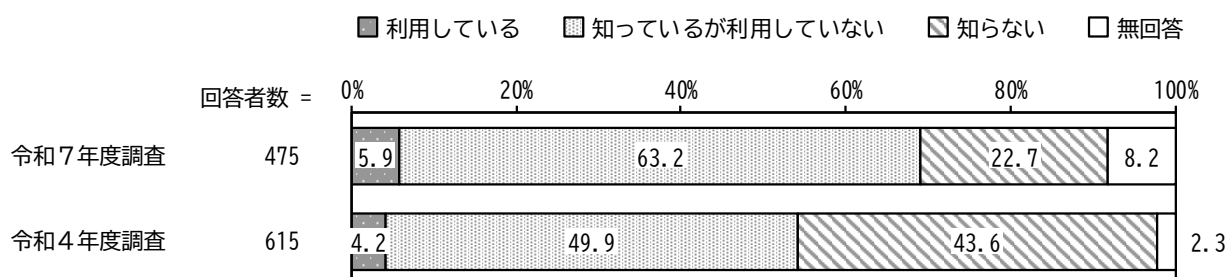


b 子ども食堂事業

「利用している」の割合が5.9%、「知っているが利用していない」の割合が63.2%、「知らない」の割合が22.7%となっています。（図表48）

令和4年度調査と比較すると、「知っているが利用していない」の割合が増加しています。一方、「知らない」の割合が減少しています。

図表48 子ども食堂事業の認知度【令和4年度調査との比較】



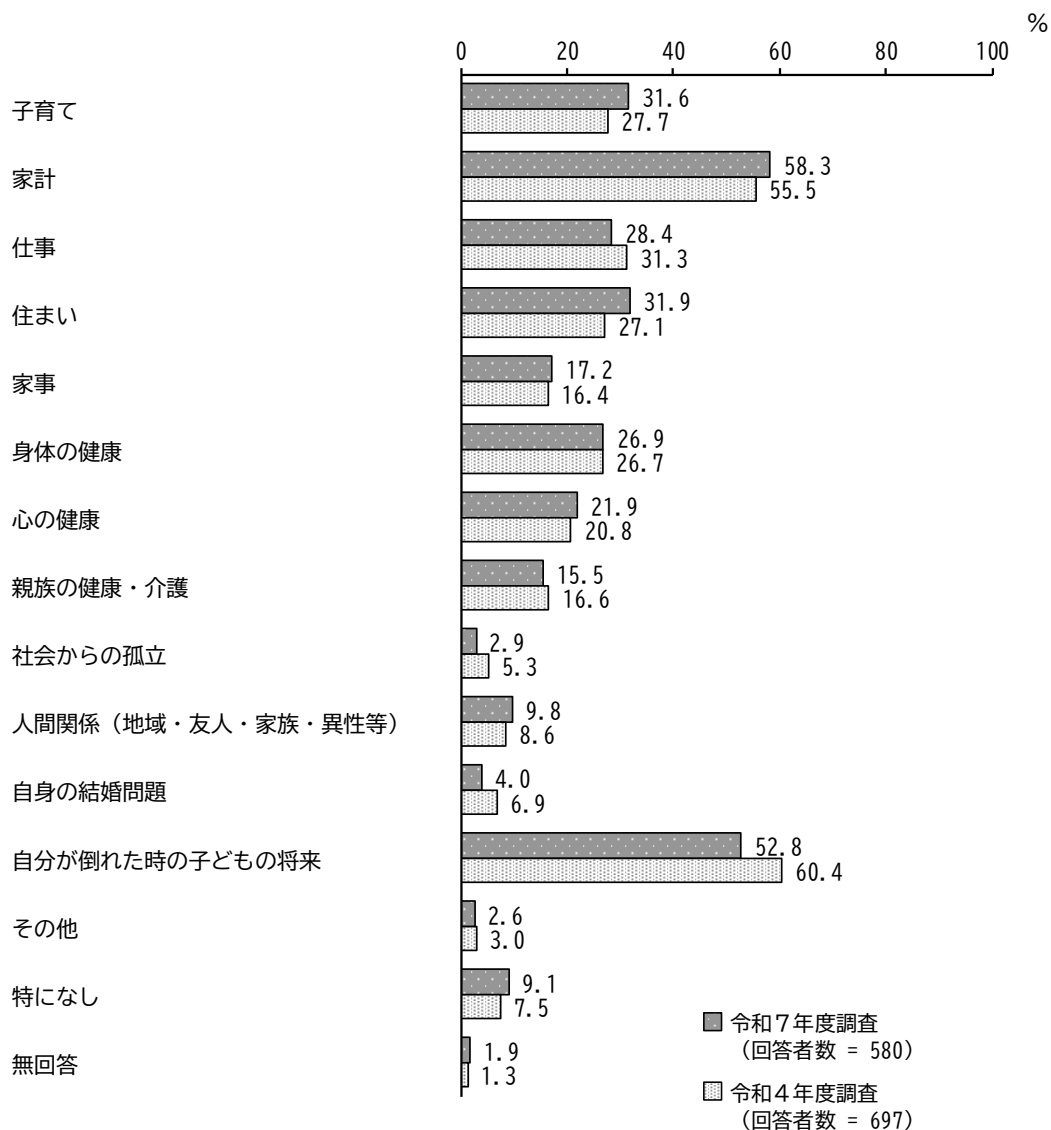
## 問 11 お困りのことについてお聞きます。

### ① 現在、困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「家計」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「自分が倒れた時の子どもの将来」の割合が 52.8%、「住まい」の割合が 31.9%となっています。(図表 49)

令和4年度調査と比較すると、「自分が倒れた時の子どもの将来」の割合が減少しています。

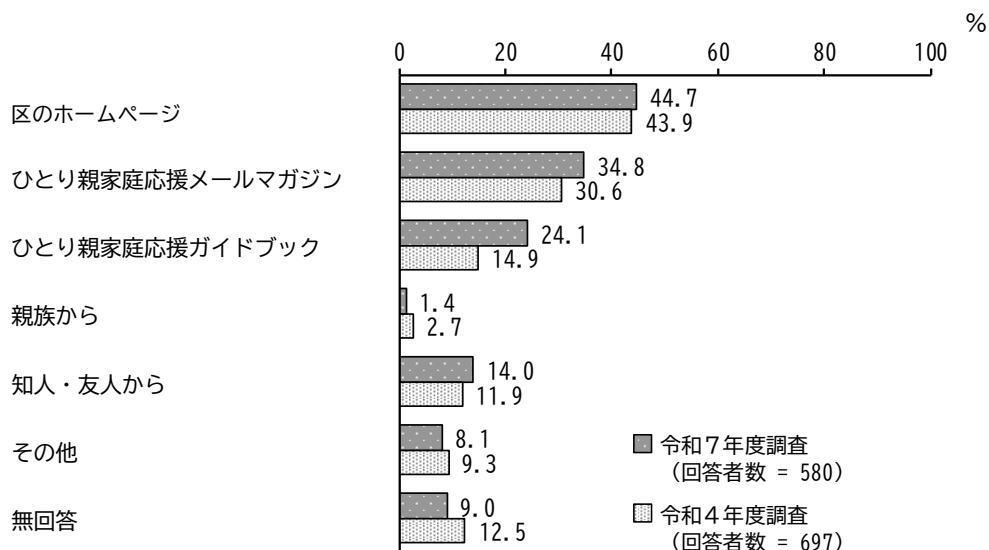
図表 49 困っていること【令和4年度調査との比較】



② ひとり親家庭の支援制度などについて、普段どのように情報を入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

「区のホームページ」の割合が 44.7%と最も高く、次いで「ひとり親家庭応援メールマガジン」の割合が 34.8%、「ひとり親家庭応援ガイドブック」の割合が 24.1%となっています。(図表 50)  
令和 4 年度調査と比較すると、「ひとり親家庭応援ガイドブック」の割合が増加しています。

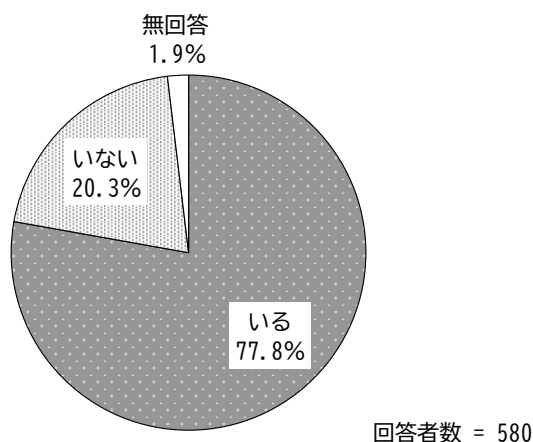
図表 50 ひとり親家庭の支援制度など情報の入手先【令和 4 年度調査との比較】



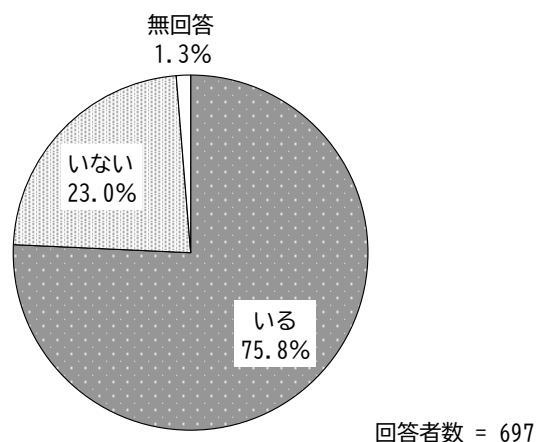
③ 悩み事を相談する相手はいますか。

「いる」の割合が 77.8%、「いない」の割合が 20.3%となっています。(図表 51)  
令和 4 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。(図表 52)

図表 51 相談相手の有無【令和 7 年度調査】



図表 52 相談相手の有無【令和 4 年度調査】





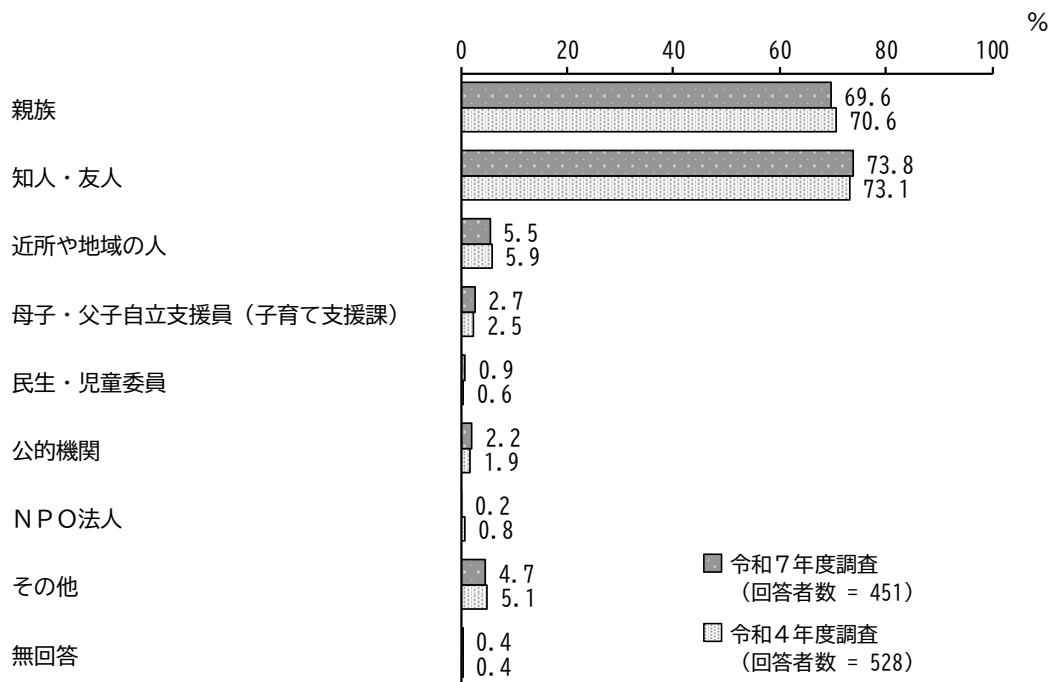
問11③で「いる」と答えた方にお聞きます。

③－１ どのような関係の方ですか。(あてはまるものすべてに○)

「知人・友人」の割合が73.8%と最も高く、次いで「親族」の割合が69.6%となっています。  
(図表53)

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表53 相談相手との関係【令和4年度調査との比較】



## 問 12 ひとり親家庭への支援制度についてお聞きします。

- ① 今後ひとり親家庭への支援について、必要と思うものはどれですか。  
(必要性が高いと思う項目の順番で数字を3つお書きください。)

1 番では「経済的支援の充実」の割合が 68.4%と最も高くなっています。

2 番では「住まいに関する支援の充実」の割合が 21.2%と最も高く、次いで「養育費確保に向けた支援の充実」の割合が 18.1%、「経済的支援の充実」の割合が 13.6%となっています。

3 番では「ひとり親家庭向けの情報提供の充実」の割合が 14.7%と最も高く、次いで「就労支援の充実」の割合が 14.0%、「住まいに関する支援の充実」の割合が 13.3%となっています。(図表 54)

図表 54 ひとり親家庭にとって必要と思う支援【令和7年度調査】

単位：％

区分	1 番	2 番	3 番
経済的支援の充実	68.4	13.6	5.9
養育費確保に向けた支援の充実	6.4	18.1	8.1
就労支援の充実	2.2	11.9	14.0
ヘルパー等による家事育児支援の充実	3.1	6.4	6.7
幼稚園・保育園・一時預かりサービス・学童クラブ等の充実	3.4	8.4	8.6
住まいに関する支援の充実	8.1	21.2	13.3
ひとり親同士の交流の場の支援	0.2	1.2	2.2
子どもと家庭に関する相談窓口の充実	1.2	2.4	5.7
ひとり親家庭向けの情報提供の充実	1.7	4.5	14.7
特にない	2.2	5.2	9.8
無回答	2.9	7.1	11.0

図表 55 ひとり親家庭にとって必要と思う支援【令和4年度調査】

単位：％

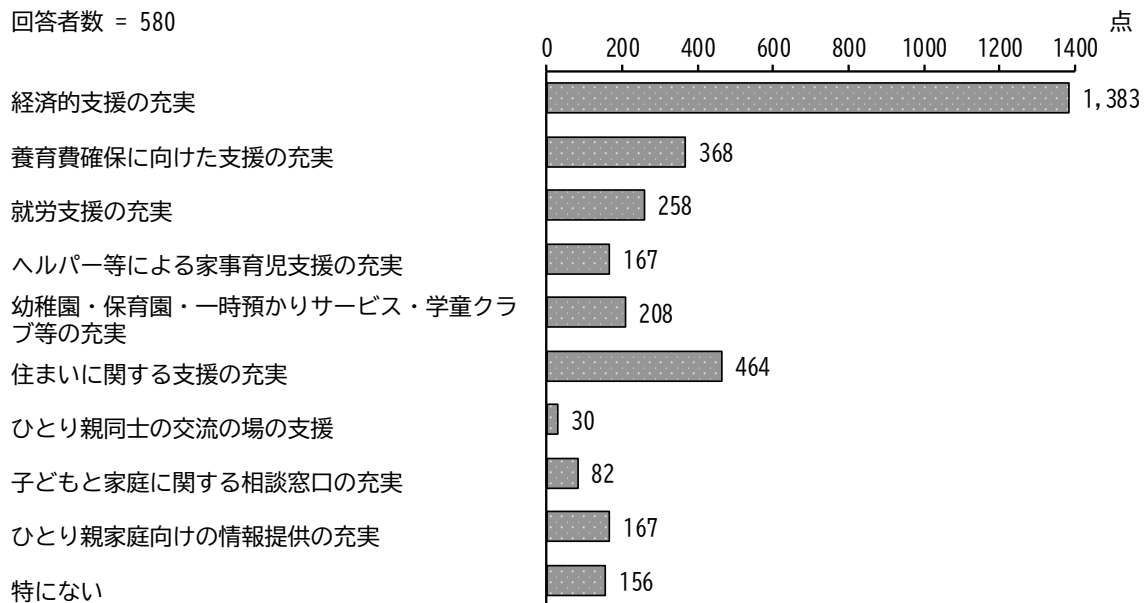
区分	1 番	2 番	3 番
経済的支援の充実	66.4	10.2	5.5
養育費確保に向けた支援の充実	5.6	19.8	4.4
就労支援の充実	3.3	14.8	13.6
ヘルパー等による家事育児支援の充実	1.7	5.2	5.0
幼稚園・保育園・一時預かりサービス・学童クラブ等の充実	4.4	8.6	9.6
住まいに関する支援の充実	7.7	18.9	15.5
ひとり親同士の交流の場の支援	0.9	1.1	3.4
子どもと家庭に関する相談窓口の充実	1.0	3.2	7.2
ひとり親家庭向けの情報提供の充実	2.4	5.7	12.6
特にない	2.9	2.4	6.6
無回答	3.6	10.0	16.5

### <得点>

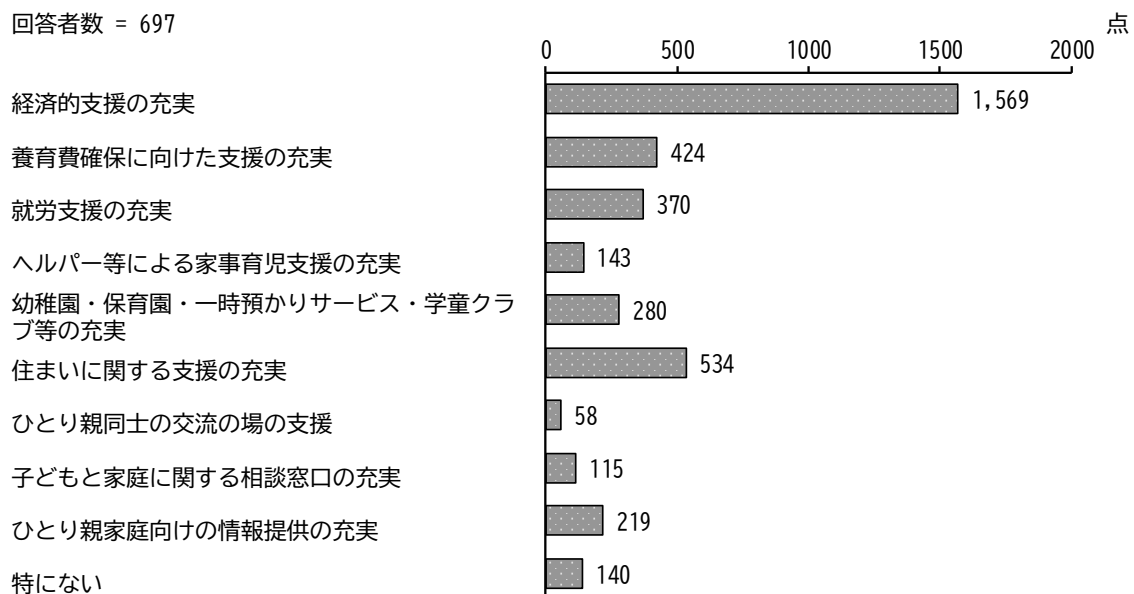
1 番目を 3 点、2 番目を 2 点、3 番目を 1 点として、それぞれの有効回答数に乘じ、1 番から 3 番の合計得点を計算したところ、「経済的支援の充実」が 1,383 点と最も高く、次いで「住まいに関する支援の充実」が 464 点、「養育費確保に向けた支援の充実」が 368 点となっています。

なお、無回答が 25 件となっています。(図表 56)

図表 56 ひとり親家庭にとって必要と思う支援<得点>【令和7年度調査】



図表 57 ひとり親家庭にとって必要と思う支援<得点>【令和4年度調査】



② ひとり親家庭への支援について、具体的なお意見・ご要望がありましたらご記入ください。

1) 生活・住まいについて

生活・住まいの意見・要望は、「都営住宅・公営住宅に当選しにくい、募集がない」が最も多く、次いで「家賃・物価の高騰により経済的に苦しい」といった意見が多くみられます。

単位：件

都営住宅・公営住宅に当選しにくい、募集がない	57
家賃・物価の高騰により経済的に苦しい	45
家賃負担軽減や住宅手当・ローンなどの住宅補助	39
ひとり親支援の充実	34
扶養手当・児童扶養手当等の条件の見直し（所得制限の緩和など）	15
都営・公営住宅等の住居の狭さ、老朽化などの環境改善	14
家事・生活支援の充実	8
防災・住宅改修支援	6
税負担や手取りについての改善	4
移動・交通、駐車場等の支援	3
その他	17

※ 特になし、わからないを除く

2) 就労について

就労についての意見・要望は、「子育てと就労の両立支援」が最も多く、次いで「収入アップ、経済的支援」についての意見が多くみられます。

単位：件

子育てと就労の両立支援	48
収入アップ、経済的支援	41
就労・転職支援	25
働き方の柔軟性向上や労働環境の改善	21
資格取得、キャリアアップ支援	7
障害や障害児を抱える家庭への就労支援	4
住まい・生活環境の改善	3
その他	2

※ 特になし、わからないを除く

### 3) 子どもの教育について

子どもの教育の意見・要望は、「進学費用支援」「塾・習い事の費用補助」についての意見が多くみられます。

単位：件

進学費用支援	51
塾・習い事の費用補助	50
学校・学童、教育支援サービスの充実	35
ひとり親家庭支援	20
情報提供・相談窓口の充実	11
その他	14

※ 特になし、わからないを除く

### 4) その他

その他の意見・要望は、「所得制限や児童扶養手当などの見直し・延長」や「子育て・家事支援の充実」「経済的困窮、経済的支援の拡充」が多くみられます。

単位：件

所得制限や児童扶養手当などの見直し・延長	18
子育て・家事支援の充実	15
経済的困窮、経済的支援の拡充	13
相談窓口・行政対応の改善	10
教育・学費支援の充実	9
制度適用基準の見直しや公平性について	9
生活支援、食料支援（フードパントリー）	7
施設について・休養ホーム・親子交流支援	5
将来への不安	5
養育費	4
医療・健康支援	3
肯定的意見・感謝など	12
その他	4

※ 特になし、わからないを除く

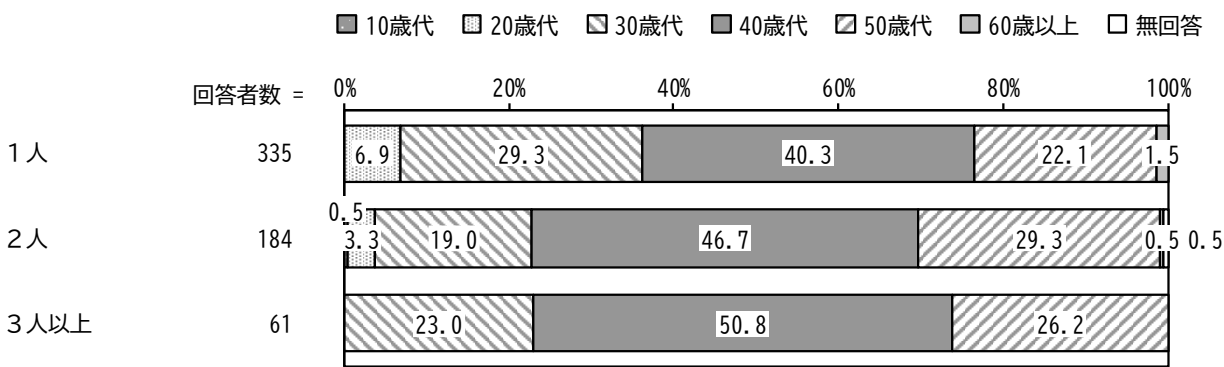
### Ⅲ クロス集計

#### 1 年齢について

【年齢（子どもの人数別）】

子どもの人数別にみると、人数が多いほど「40 歳代」の割合が高くなっています。（図表 58）

図表 58 年齢と子どもの人数

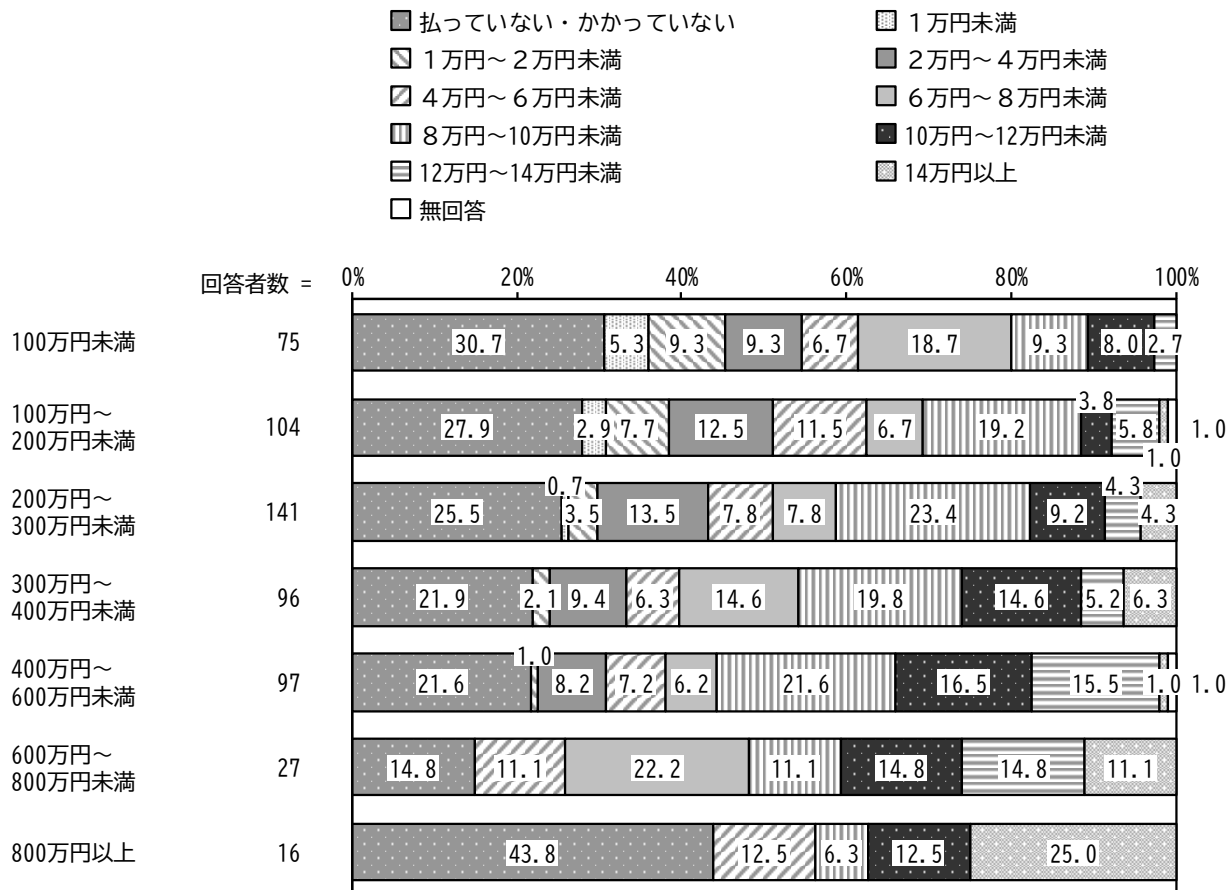


## 2 住まいについて

### 【家賃や住宅ローンの月額（世帯年収別）】

世帯年収別にみると、100万円未満から600万円～800万円未満までは年収が少ないほど「払っていない・かかっている」の割合が高く、また100万円未満から400万円未満までは半数以上が、支払っている家賃が10万円未満となっています。（図表59）

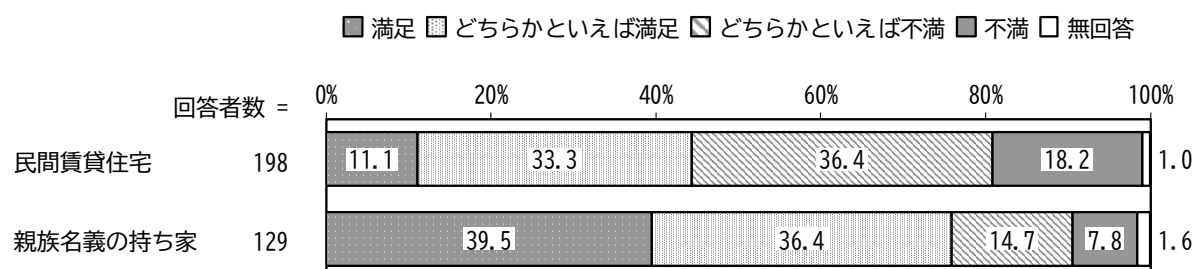
図表59 家賃や住宅ローンの月額と世帯年収



### 【住まいに関する不満の理由（住まい状況別）】

住まい状況別にみると、親族名義の持ち家で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた“満足”の割合が、民間賃貸住宅で「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた“不満”の割合が高くなっています。（図表60）

図表60 住まいに関する不満の理由と住まい状況



【住まいに関する不満の理由（世帯年収別）】

世帯年収別にみると、100万円未満から300万円～400万円未満で「部屋が狭い」の割合が高くなっています。（図表 61）

図表 61 住まいに関する不満の理由と世帯年収

単位：％

区分	回答者数（件）	古い、設備が悪い	部屋が狭い	家賃が高い	学校・職場から遠い	引っ越しをしたいが希望する物件が見つからない	引越しの代金・礼金・引っ越し代などのお金がない	引っ越しをしたいが物件探しや引っ越し作業など準備に時間がかかる	引っ越しをしたいが保証人がいない	その他	無回答
100万円未満	20	25.0	55.0	40.0	10.0	25.0	35.0	10.0	20.0	35.0	0.0
100万円～200万円未満	37	45.9	73.0	54.1	5.4	21.6	45.9	10.8	10.8	8.1	0.0
200万円～300万円未満	48	47.9	60.4	47.9	4.2	27.1	52.1	18.8	16.7	22.9	0.0
300万円～400万円未満	27	59.3	66.7	37.0	7.4	37.0	51.9	11.1	0.0	11.1	0.0
400万円～600万円未満	22	45.5	50.0	50.0	0.0	50.0	45.5	27.3	18.2	13.6	0.0
600万円～800万円未満	8	75.0	25.0	62.5	12.5	25.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0
800万円以上	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

【住まいに関する不満の理由（住まい状況別）】

住まい状況別にみると、民間賃貸住宅で「部屋が狭い」「家賃が高い」「引っ越しをしたいが敷金・礼金・引っ越し代などのお金がない」の割合が高くなっています。（図表 62）

図表 62 住まいに関する不満の理由と住まい状況

単位：％

区分	回答者数（件）	古い、設備が悪い	部屋が狭い	家賃が高い	学校・職場から遠い	引っ越しをしたいが希望する物件が見つからない	引越しの代金・礼金・引っ越し代などのお金がない	引っ越しをしたいが物件探しや引っ越し作業など準備に時間がかかる	引っ越しをしたいが保証人がいない	その他	無回答
民間賃貸住宅	108	49.1	69.4	66.7	4.6	38.0	55.6	16.7	12.0	10.2	0.0
親族名義の持ち家	29	48.3	51.7	6.9	3.4	20.7	41.4	10.3	6.9	24.1	0.0



【住まいに関する不満の理由（世帯年収別（民間賃貸住宅のみ））】

世帯年収別にみると、100万円～200万円未満、200万円～300万円未満、300万円～400万円未満で「部屋が狭い」「家賃が高い」「引っ越しをしたいが敷金・礼金・引っ越し代などのお金がない」の割合が高い傾向にあります。（図表 63）

図表 63 住まいに関する不満の理由と世帯年収（民間賃貸住宅のみ）

単位：％

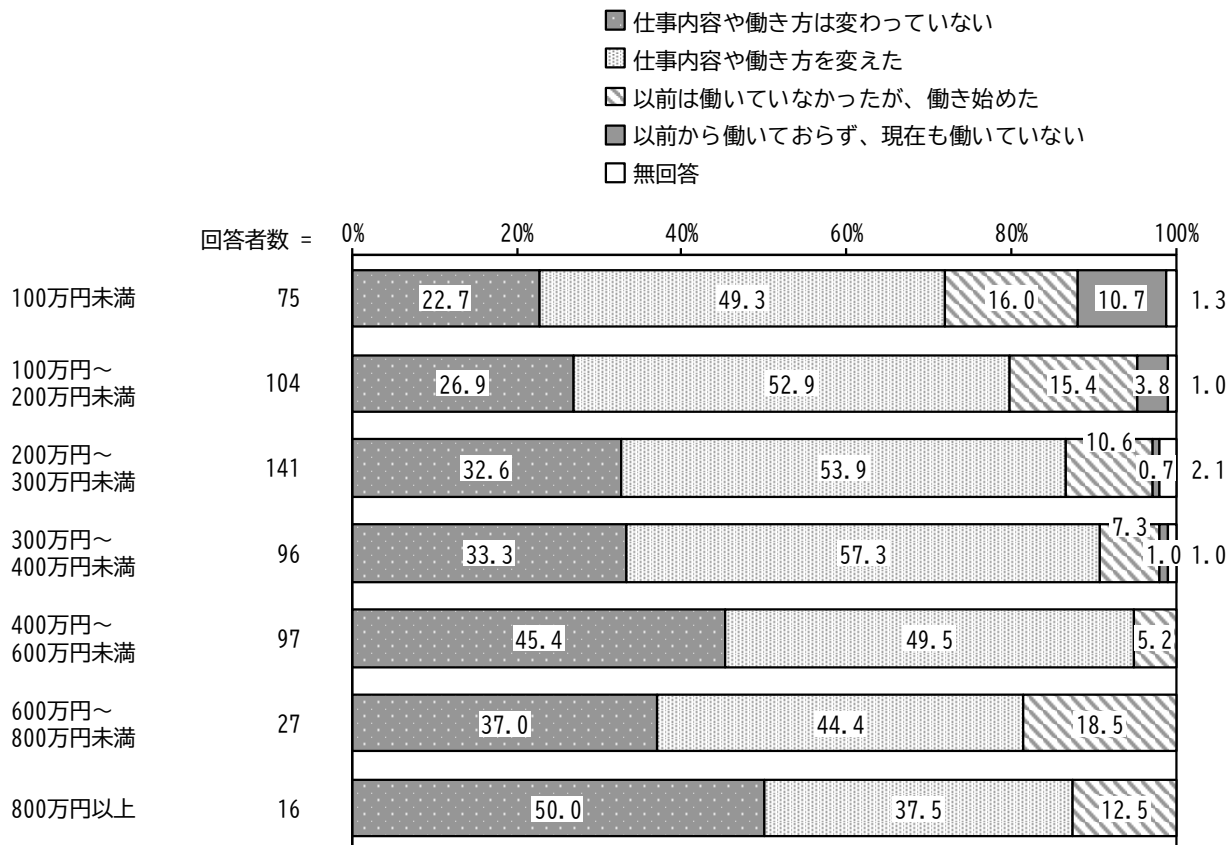
区分	回答者数 (件)	古い、 設備が悪い	部屋が狭い	家賃が高い	学校・ 職場から遠い	引っ越しを したいが 希望する 物件が 見つ からない	敷金・礼金・ 引っ越し 代などのお 金がない	引っ越しを したいが 敷金・礼金・ 引っ越し 代などのお 金がない	物件探しや 引っ越し 作業など 準備にか かる時間 がとれない	引っ越しを したいが 保証人が いない	その他	無回答
100万円未満	12	33.3	58.3	66.7	8.3	33.3	33.3	8.3	25.0	16.7	0.0	0.0
100万円～200万円未満	22	36.4	86.4	77.3	9.1	22.7	59.1	13.6	9.1	9.1	0.0	0.0
200万円～300万円未満	30	56.7	70.0	70.0	3.3	36.7	70.0	26.7	23.3	16.7	0.0	0.0
300万円～400万円未満	17	52.9	70.6	58.8	5.9	58.8	70.6	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0
400万円～600万円未満	13	61.5	61.5	53.8	0.0	53.8	38.5	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0
600万円～800万円未満	5	80.0	20.0	60.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
800万円以上	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

### 3 就労について

#### 【ひとり親になった後の働き方の変化状況（世帯年収別）】

世帯年収別にみると、800 万円以上を除いて「仕事内容や働き方を変えた」の割合が高くなっています。（図表 64）

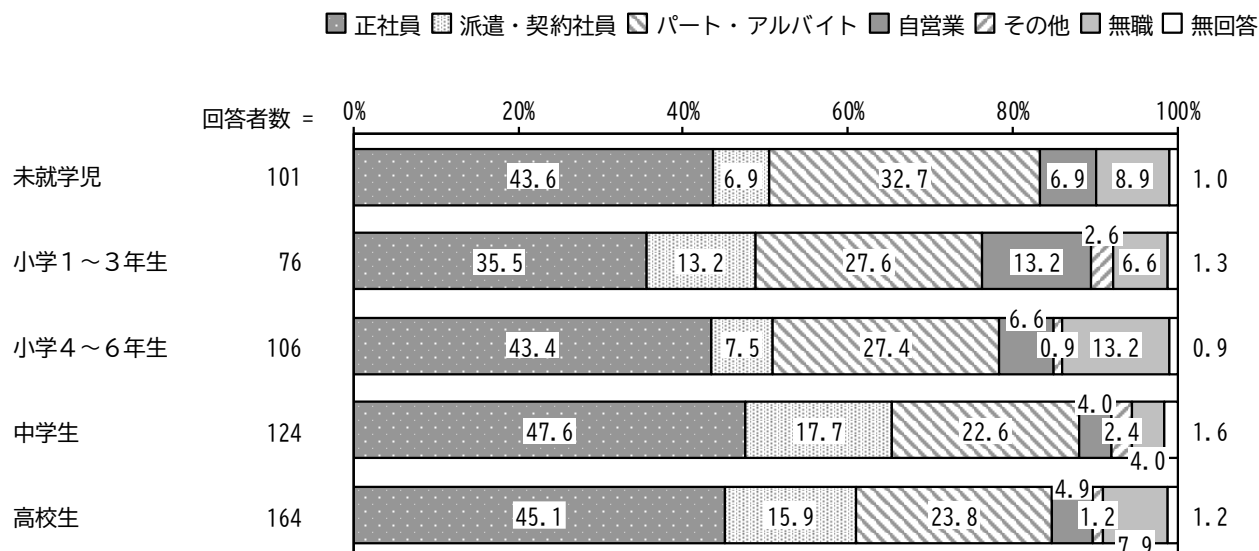
図表 64 ひとり親になった後の働き方の変化状況と世帯年収



### 【就労状況（末子の年齢別）】

末子の年齢別にみると、どの年齢層においても正社員の割合が高く、他に比べ、未就学児で「パート・アルバイト」の割合が高くなっています。（図表 65）

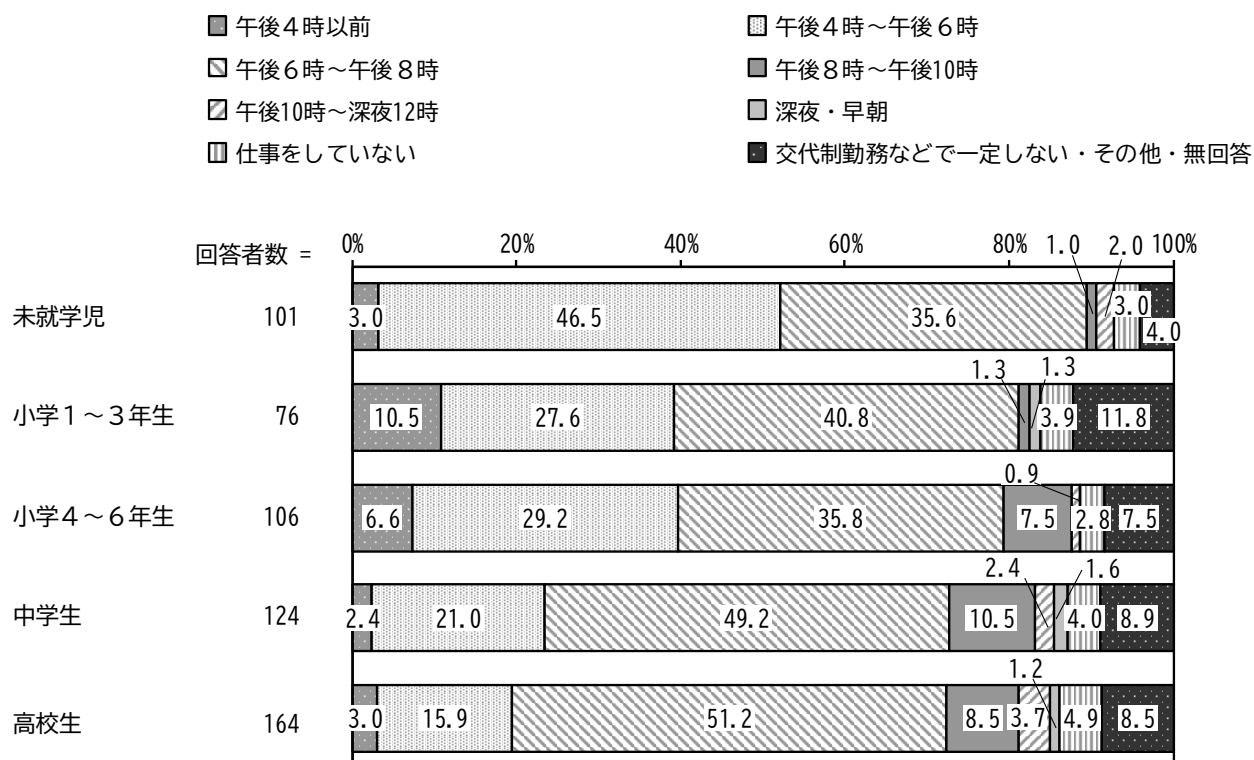
図表 65 就労状況と末子の年齢



### 【帰宅時間（末子の年齢別）】

末子の年齢別にみると、未就学児においては「午後4時～午後6時」の割合が高く、他の年齢はすべて「午後6時～午後8時」の割合が高くなっています。（図表 66）

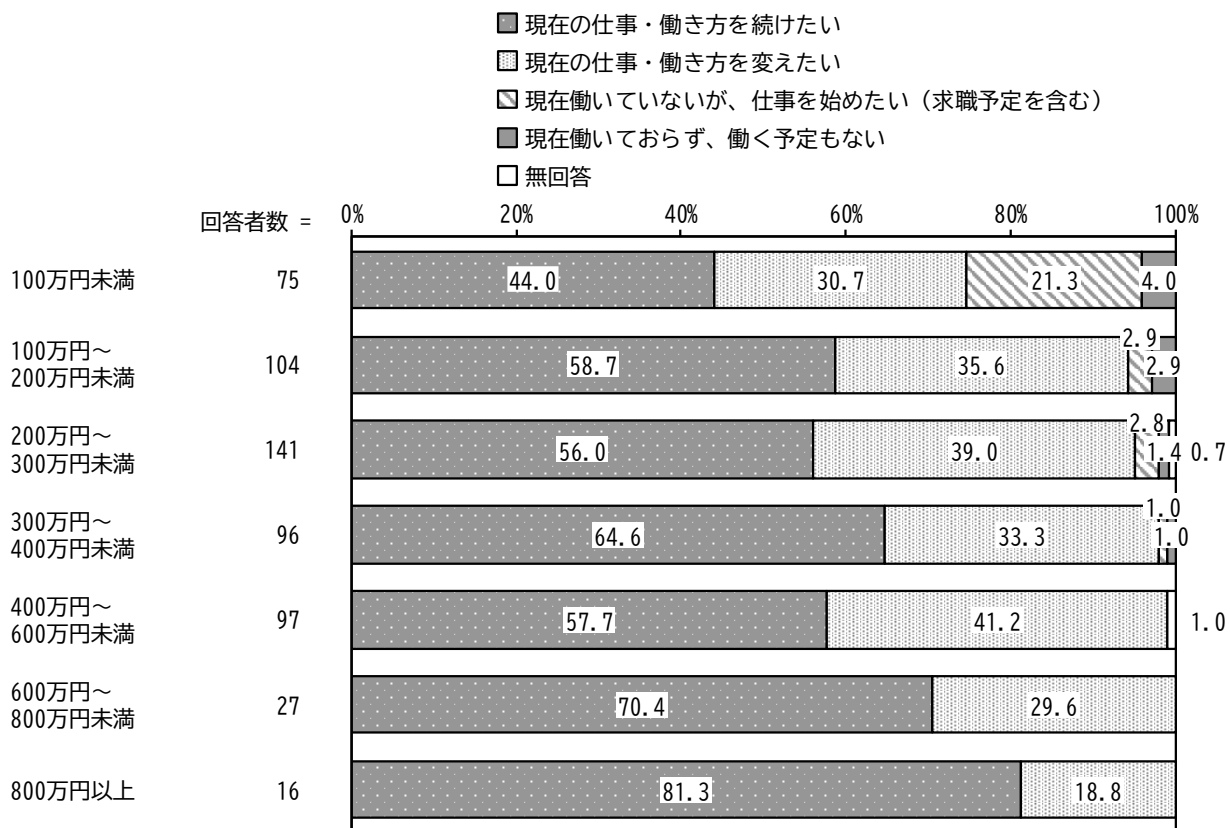
図表 66 帰宅時間と末子の年齢



# 【現在の仕事・働き方の変更希望（世帯年収別）】

世帯年収別にみると、どの世帯年収においても「現在の仕事・働き方を続けたい」の割合が高い傾向にあります。ただし、他に比べ、100万円未満で「現在働いていないが、仕事を始めたい（求職予定を含む）」の割合が高くなっています。（図表 67）

図表 67 現在の仕事・働き方の変更希望と世帯年収



【取得したい資格（就労状況別）】

就労状況別にみると、正社員で「パソコン技能」「日商簿記」、派遣・契約社員で「パソコン技能」「外国語関係」、パート・アルバイトで「パソコン技能」「医療事務」の割合が高くなっています。（図表 68）

図表 68 取得したい資格と就労状況

単位：％

区分	回答者数 (件)	日商簿記	医療事務	パソコン技能	登録販売者	宅地建物取引士	社会保険労務士	介護職員初任者研修	外国語関係	普通自動車免許	高卒認定試験	看護師
正社員	121	22.3	11.6	26.4	5.8	17.4	13.2	3.3	14.9	9.1	0.8	9.1
派遣・契約社員	28	17.9	17.9	32.1	7.1	3.6	14.3	7.1	21.4	10.7	0.0	3.6
パート・アルバイト	76	18.4	19.7	30.3	9.2	6.6	5.3	6.6	5.3	11.8	1.3	2.6
自営業	14	14.3	7.1	14.3	7.1	35.7	0.0	0.0	7.1	21.4	0.0	0.0
その他	6	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7
無職	25	12.0	32.0	40.0	4.0	8.0	8.0	0.0	16.0	16.0	8.0	8.0

区分	准看護師	介護福祉士	保育士	理容師	美容師	歯科衛生士	社会福祉士	調理師	栄養士	その他	無回答
正社員	5.0	10.7	10.7	0.8	2.5	2.5	5.0	5.8	6.6	24.0	1.7
派遣・契約社員	3.6	3.6	3.6	0.0	7.1	0.0	3.6	10.7	7.1	25.0	3.6
パート・アルバイト	1.3	6.6	6.6	1.3	1.3	2.6	3.9	13.2	9.2	18.4	1.3
自営業	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	28.6	0.0
その他	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
無職	8.0	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	12.0	12.0	8.0	24.0	0.0

【資格を取得する際に不安なこと（就労状況別）】

就労状況別にみると、正社員で「仕事が忙しい」、派遣・契約社員で「費用が高い」、パート・アルバイトで「家事・育児との両立」の割合が高くなっています。（図表 69）

図表 69 資格を取得する際に不安なことと就労状況

単位：％

区分	回答者数 (件)	家事・育児との両立	仕事が忙しい	費用が高い	健康面に不安がある	資格勉強中の収入	その他	無回答
正社員	121	61.2	68.6	52.1	10.7	26.4	4.1	4.1
派遣・契約社員	28	46.4	50.0	60.7	10.7	39.3	10.7	3.6
パート・アルバイト	76	68.4	43.4	59.2	22.4	44.7	2.6	1.3
自営業	14	35.7	57.1	57.1	7.1	35.7	0.0	0.0
その他	6	66.7	50.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
無職	25	60.0	4.0	44.0	44.0	32.0	4.0	0.0

## 4 収入について

### 【収入の種類（就労状況別）】

就労状況別にみると、正社員で「就労収入（給与・事業・営業等）」、派遣・契約社員、パート・アルバイトで「就労収入（給与・事業・営業等）」の他に「児童扶養手当等の各種手当」の割合が高くなっています。（図表 70）

図表 70 収入の種類と就労状況

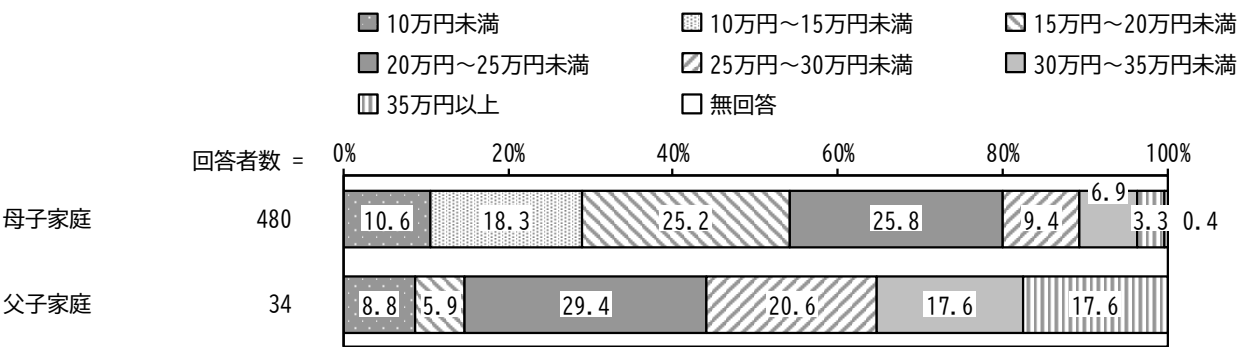
単位：％

区分	回答者数（件）	就労収入（給与・事業・営業等）	年金等	親族からの仕送り	家賃・地代の収入等	児童扶養手当等の各種手当	養育費	生活保護	貯蓄の取り崩し	その他	無回答
正社員	253	99.6	5.5	0.8	0.8	38.7	13.4	0.0	14.2	0.0	0.4
派遣・契約社員	74	98.6	10.8	1.4	1.4	54.1	18.9	1.4	16.2	0.0	0.0
パート・アルバイト	152	94.1	6.6	2.6	0.7	69.7	17.1	9.2	17.1	0.0	0.0
自営業	39	92.3	2.6	2.6	2.6	46.2	15.4	2.6	15.4	2.6	0.0
その他	9	66.7	22.2	0.0	11.1	44.4	0.0	11.1	44.4	0.0	0.0
無職	46	2.2	8.7	0.0	0.0	54.3	17.4	43.5	32.6	13.0	2.2

### 【月額収入（親の性別）】

親の性別にみると、母子家庭で「20 万円～25 万円未満」「15 万円～20 万円未満」「10 万円～15 万円未満」の順に、父子家庭で「20 万円～25 万円未満」「25 万円～30 万円未満」「30 万円～35 万円未満」の順に割合が高くなっています。（図表 71）

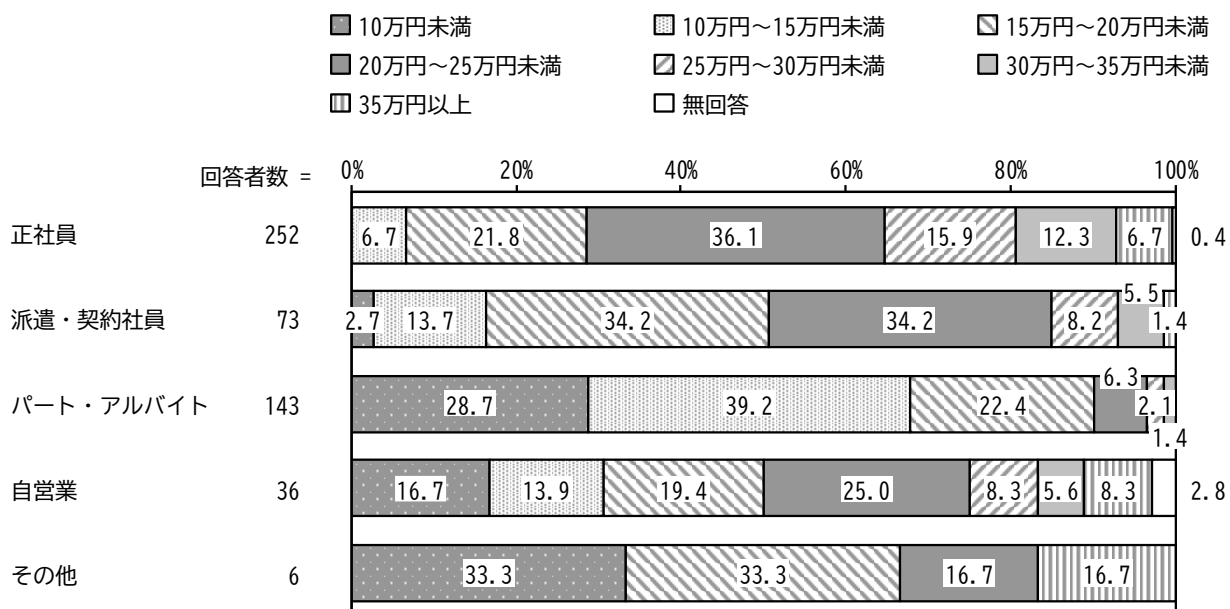
図表 71 月額収入と親の性別



## 【月額収入（就労状況別）】

就労状況別にみると、正社員で「20万円～25万円未満」、派遣・契約社員で「20万円～25万円未満」「15万円～20万円未満」、パート・アルバイトで「10万円～15万円未満」の割合が高くなっています。（図表 72）

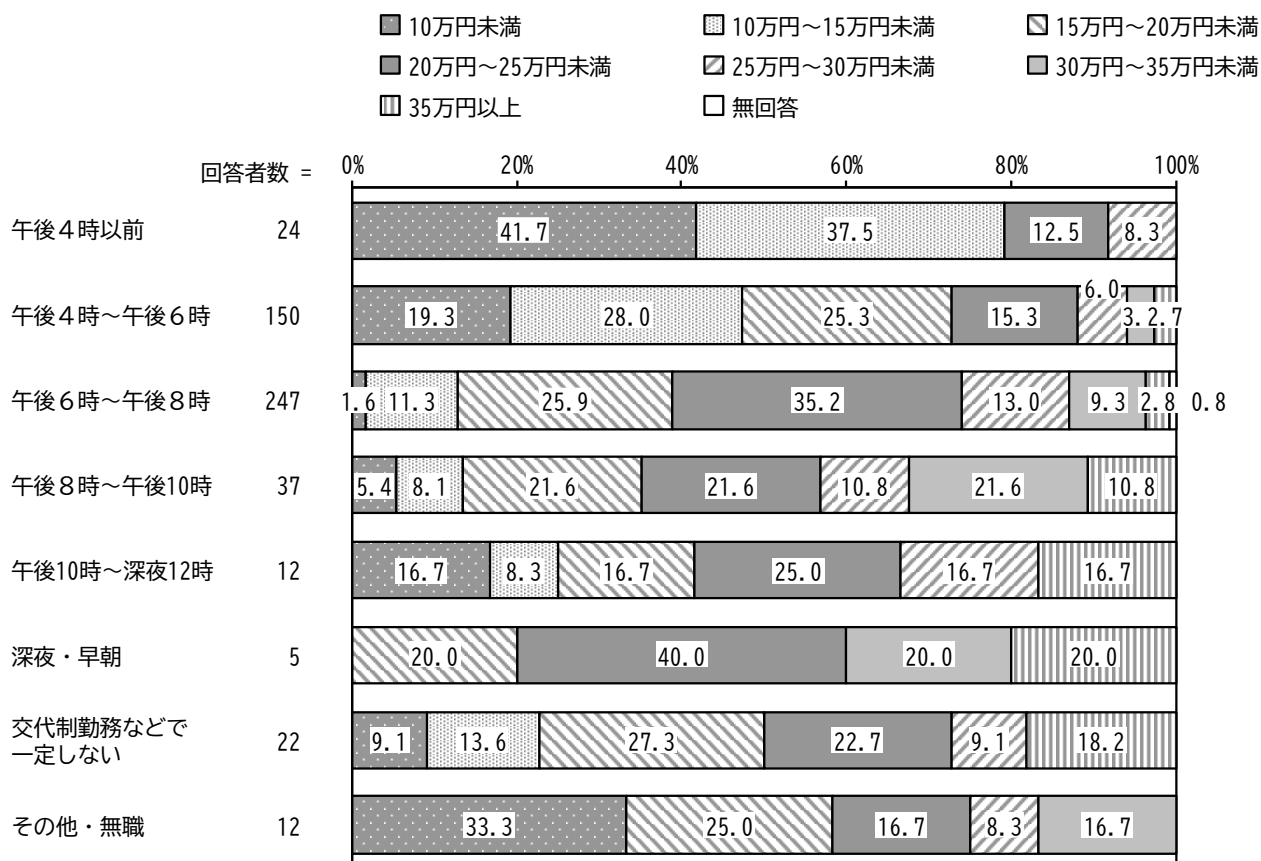
図表 72 月額収入と就労状況



## 【月額収入（帰宅時間別）】

帰宅時間別にみると、午後6時までの帰宅時間で20万円以下の割合が70%以上となっており、午後6時以降の帰宅時間で20万円以上の割合が50%以上となっています。（図表73）

図表73 月額収入と帰宅時間

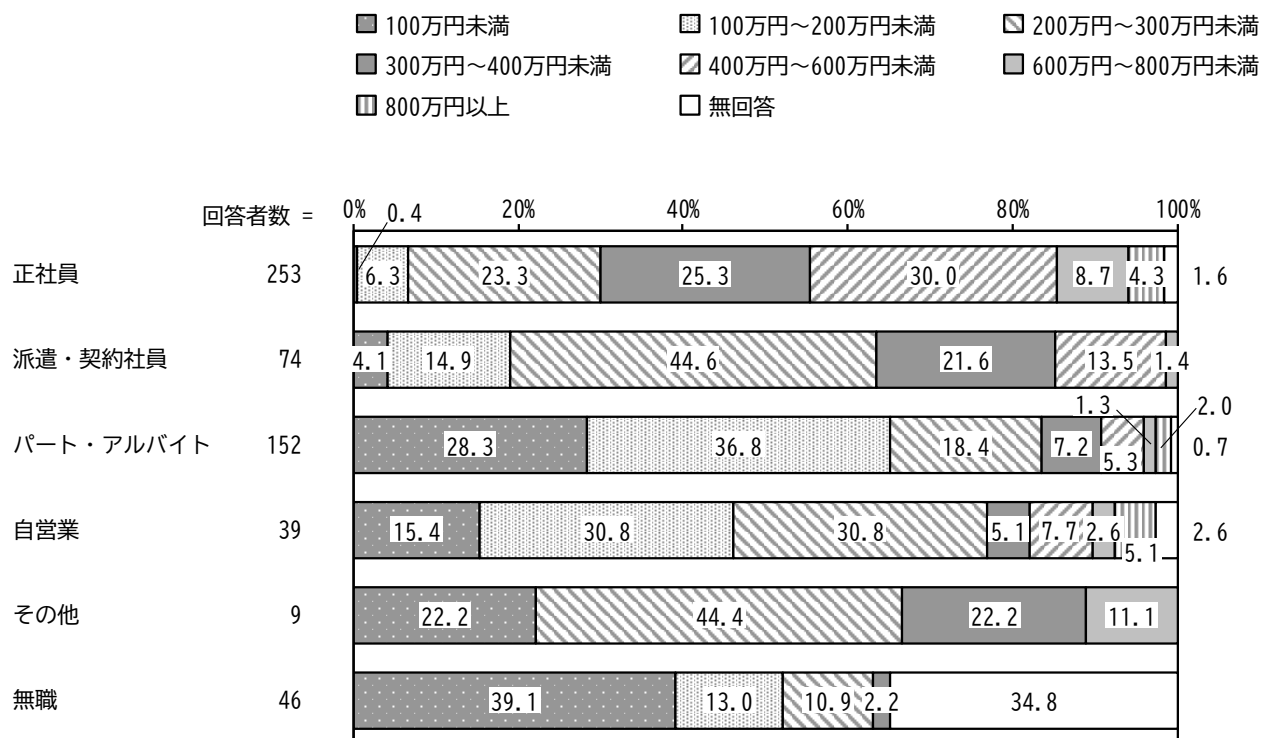




# 【世帯全員の年収（就労状況別）】

就労状況別にみると、正社員で「400万円～600万円未満」、派遣・契約社員で「200万円～300万円未満」パート・アルバイトで「100万円～200万円未満」の割合が高くなっています。（図表 74）

図表 74 世帯全員の年収と就労状況

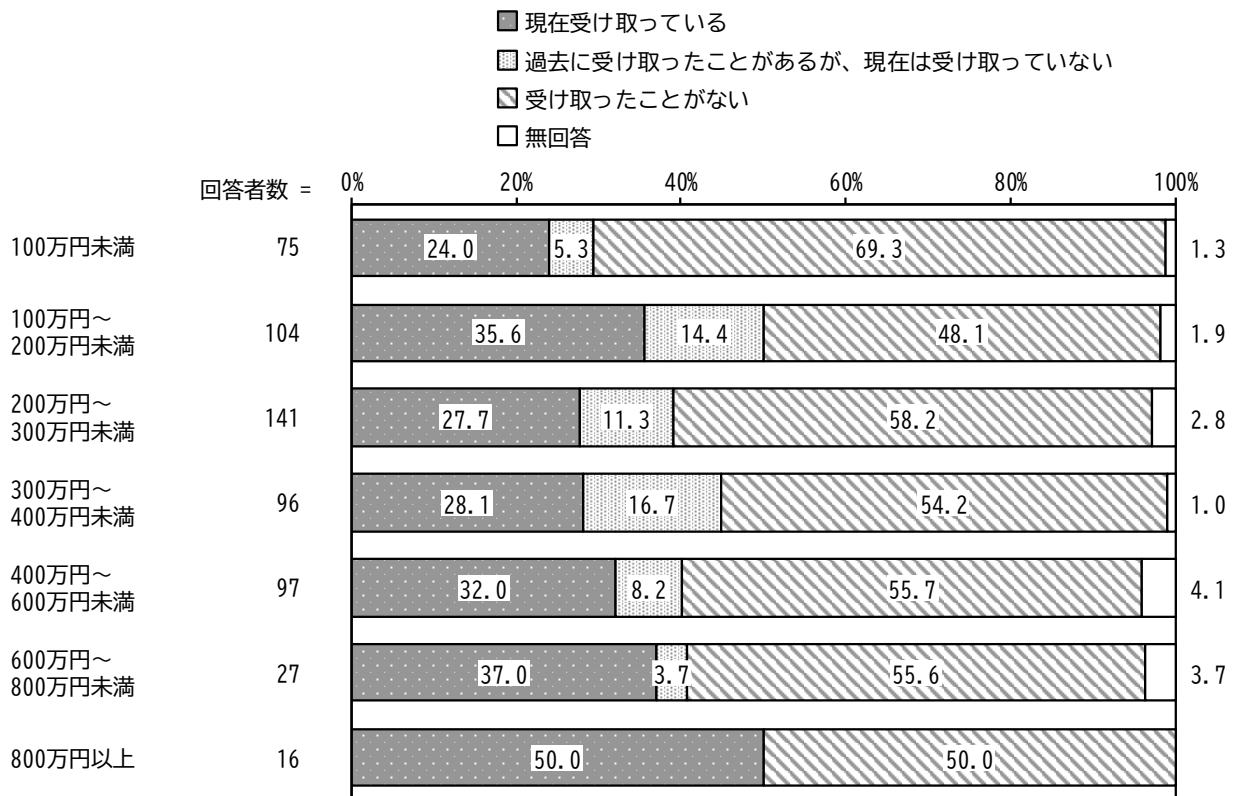


## 5 養育費について

### 【養育費の受け取り状況（世帯年収別）】

世帯年収別にみると、どの世帯年収においても「受け取ったことがない」の割合が高くなっています。また、特に100万円未満で「受け取ったことがない」の割合が高くなっています。200万円以上では世帯年収が高くなるにつれ、「現在受け取っている」の割合が高くなっています。（図表75）

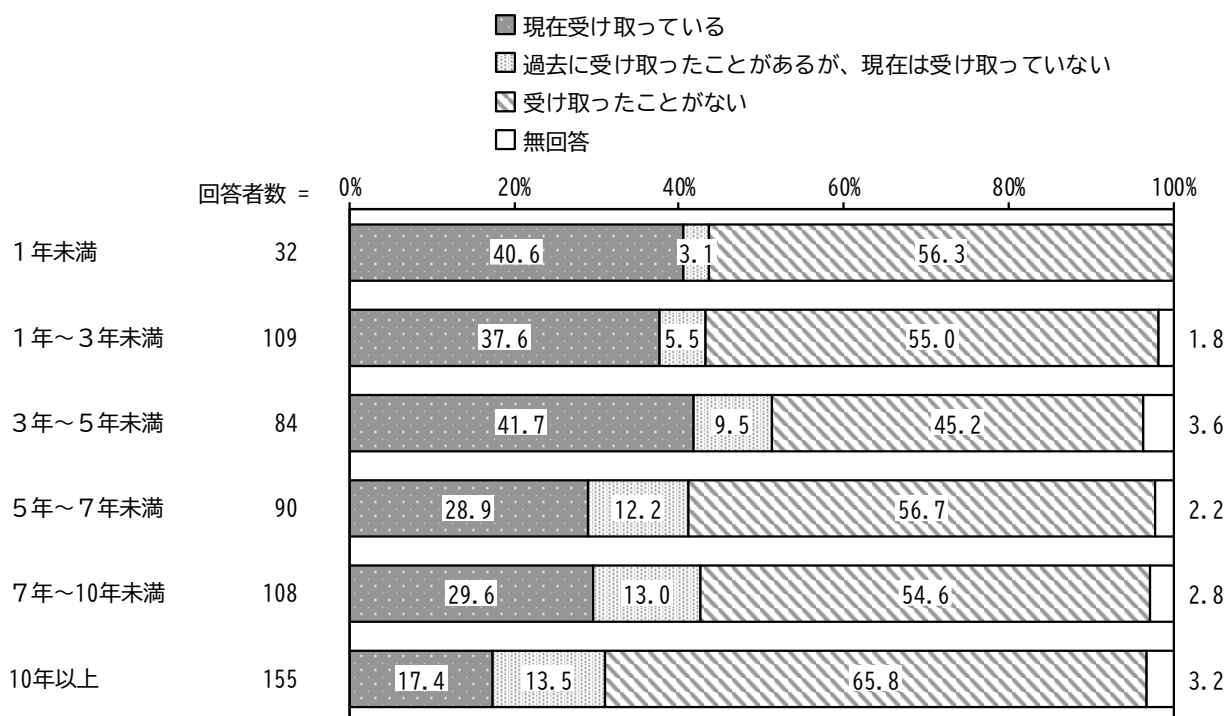
図表 75 養育費の受け取り状況と世帯年収



【養育費の受け取り状況（ひとり親になってからの年数別）】

ひとり親になってからの年数別にみると、10 年以上で「受け取ったことがない」の割合が高くなっています。また、年数が長いほど「過去に受け取ったことがあるが、現在は受け取っていない」の割合が高くなる傾向にあります。（図表 76）

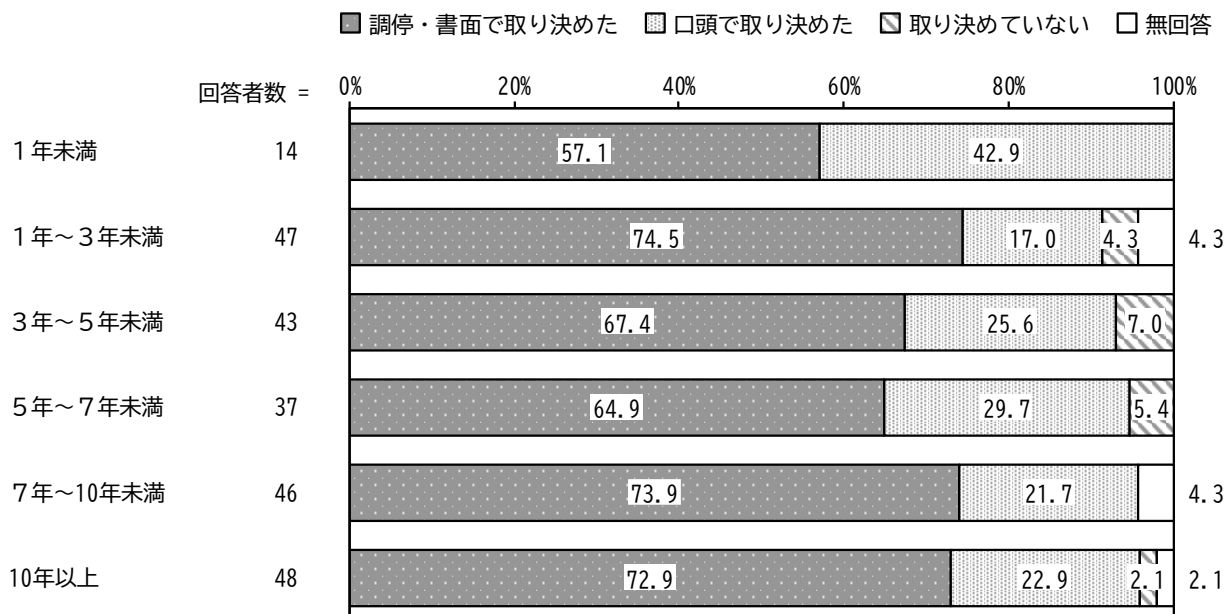
図表 76 養育費の受け取り状況とひとり親になってからの年数



【養育費の取り決め状況（ひとり親になってからの年数別）】

ひとり親になってからの年数別にみると、他に比べ、1年未満で「口頭で取り決めた」の割合が高く、「調停・書面で取り決めた」の割合が低くなっています。（図表 77）

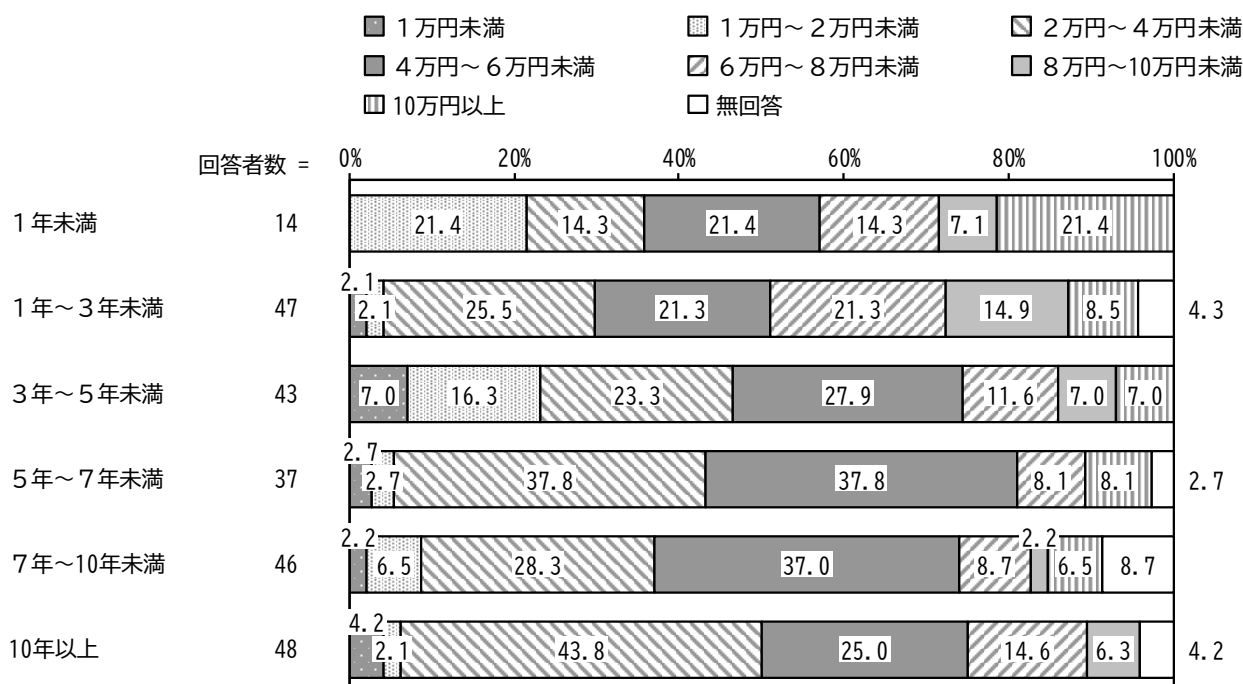
図表 77 養育費の取り決め状況とひとり親になってからの年数



【養育費の月額（ひとり親になってからの年数別）】

ひとり親になってからの年数別にみると、他に比べ、5年以上になると「2万円～4万円未満」「4万円～6万円未満」の割合が高くなる傾向にあります。また、10年以上で「2万円～4万円未満」の割合が高くなっています。（図表 78）

図表 78 養育費の月額とひとり親になってからの年数



【養育費を受け取っていない理由（ひとり親になってからの年数別）】

ひとり親になってからの年数別にみると、3年未満までは「相手方に支払う能力がない」の割合が高くなる傾向にあり、年数が長いほうが「相手方と関わりたくない」の割合が高くなる傾向にあります。（図表 79）

図表 79 養育費を受け取っていない理由とひとり親になってからの年数

単位：％

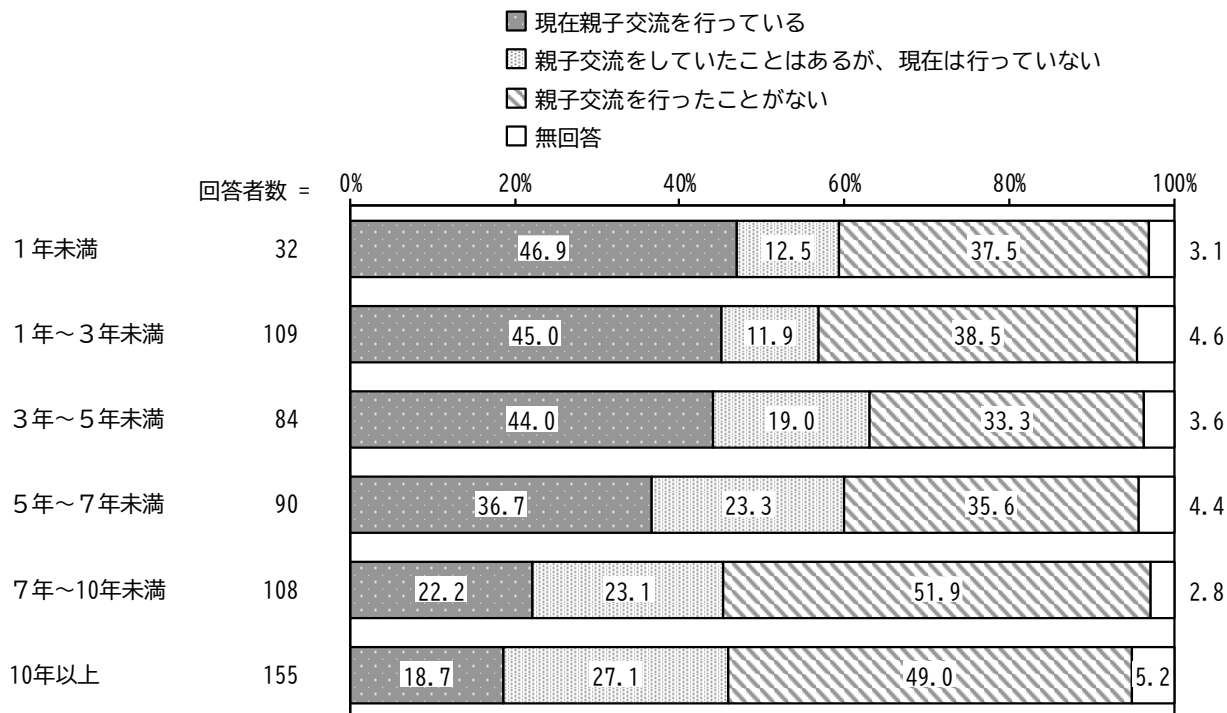
区分	回答者数 (件)	取り決 めをしな かつた	養育費を請求できる ことを知らなかった	自分に収入があり必 要ない	相手方に支払う能力 がない	否 相手方が支払いを拒 否	相手方と関わりたく ない	相手方と連絡がとれ ない	その他	無回 答
1年未満	18	27.8	0.0	5.6	27.8	5.6	16.7	5.6	38.9	11.1
1年～3年未満	60	20.0	0.0	1.7	41.7	16.7	25.0	8.3	23.3	3.3
3年～5年未満	38	15.8	0.0	7.9	31.6	15.8	31.6	21.1	13.2	2.6
5年～7年未満	51	17.6	0.0	2.0	31.4	21.6	43.1	21.6	21.6	2.0
7年～10年未満	59	10.2	0.0	6.8	27.1	27.1	50.8	18.6	13.6	5.1
10年以上	102	26.5	1.0	2.0	26.5	17.6	48.0	26.5	5.9	2.9

## 6 親子交流について

### 【親（相手方）と子どもの親子交流（ひとり親になってからの年数別）】

ひとり親になってからの年数別にみると、年数が短いほど「現在親子交流を行っている」の割合が高くなっています。（図表 80）

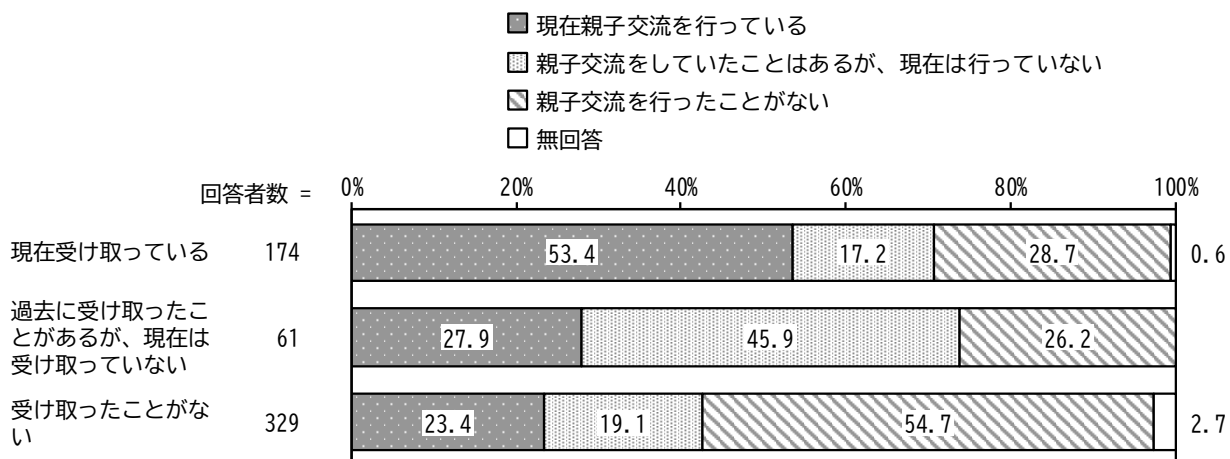
図表 80 親（相手方）と子どもの親子交流とひとり親になってからの年数



### 【親（相手方）と子どもの親子交流（養育費の取り決め状況別）】

養育費の取り決め状況別にみると、『現在受け取っている』で「現在親子交流を行っている」の割合が高く、『過去に受け取ったことがあるが、現在は受け取っていない』で「親子交流をしていたことはあるが、現在は行っていない」の割合が高く、『受け取ったことがない』で「親子交流を行ったことがない」の割合が高くなっています。（図表 81）

図表 81 親（相手方）と子どもの親子交流と養育費の取り決め状況

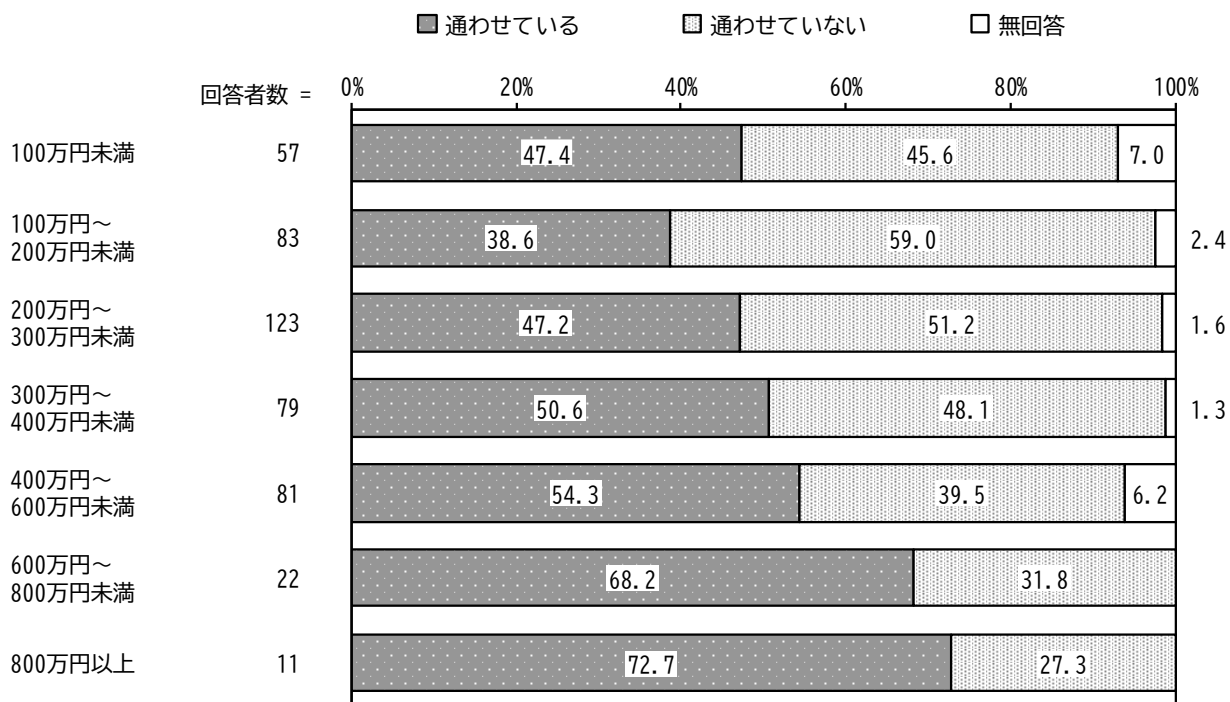


## 7 小学生以上のお子さんがいる方について

### 【学習塾や習い事（世帯年収別）】

世帯年収別にみると、100万円～200万円未満から800万円以上まで年収が上がるほど「通わせている」の割合が高くなっています。（図表 82）

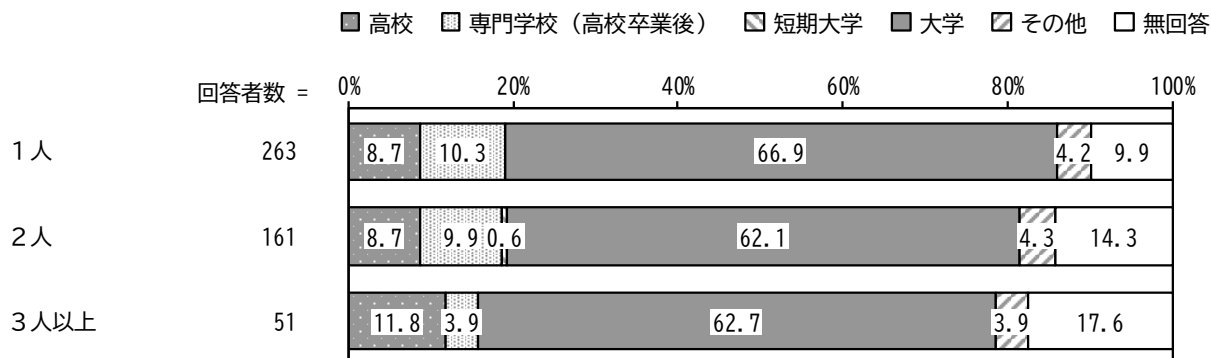
図表 82 学習塾や習い事と世帯年収



### 【子どもの最終進学目標（子どもの人数別）】

子どもの人数別にみると、すべての区分において「大学」の割合が高くなっています。（図表 83）

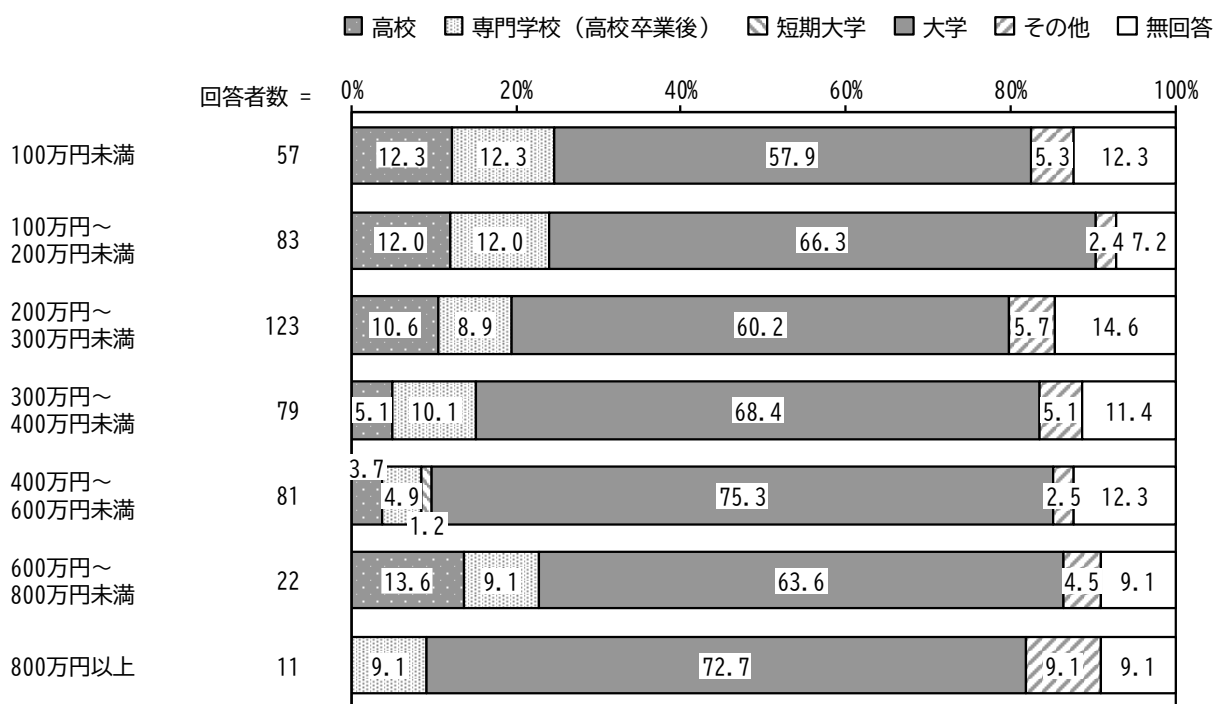
図表 83 子どもの最終進学目標と子どもの人数



## 【子どもの最終進学目標（世帯年収別）】

世帯年収別にみると、すべての区分において「大学」の割合が高くなっています。（図表 84）

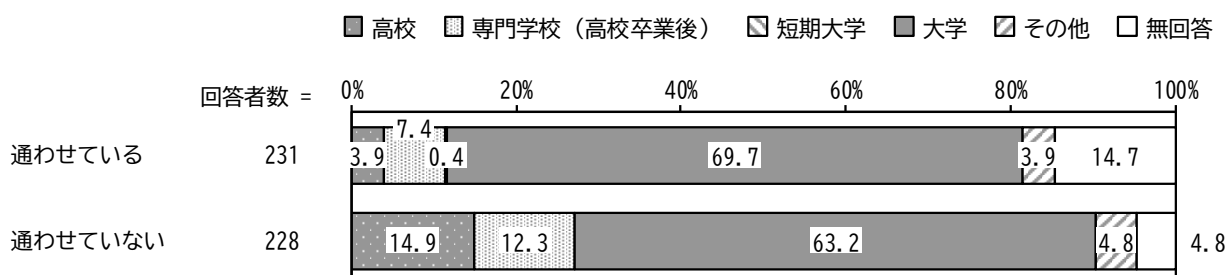
図表 84 子どもの最終進学目標と世帯年収



## 【子どもの最終進学目標（子どもの通塾別）】

子どもの通塾別にみると、『通わせている』で「大学」の割合が高く、『通わせていない』で『通わせている』と比べて「高校」や「専門学校」の割合が高くなっています。（図表 85）

図表 85 子どもの最終進学目標と子どもの通塾

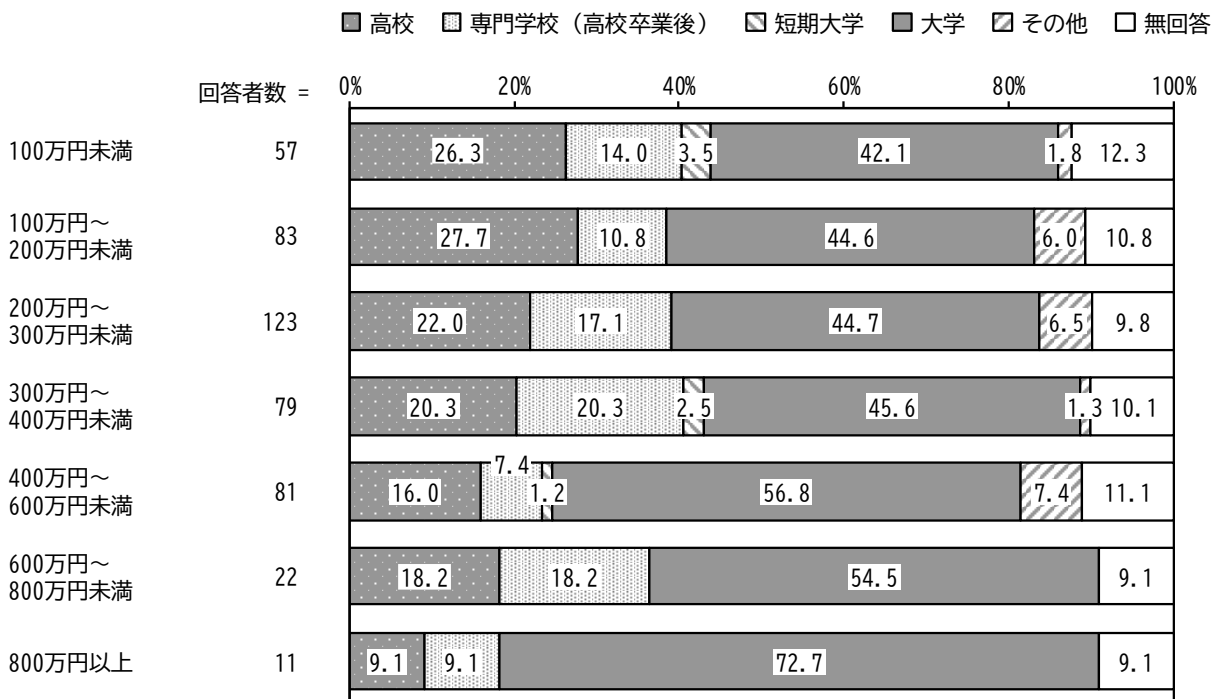




【可能だと思われる子どもの最終進学目標（世帯年収別）】

世帯年収別にみると、すべての区分において「大学」の割合が高く、また年収が少ないほうが「高校」の割合が高くなる傾向にあります。（図表 86）

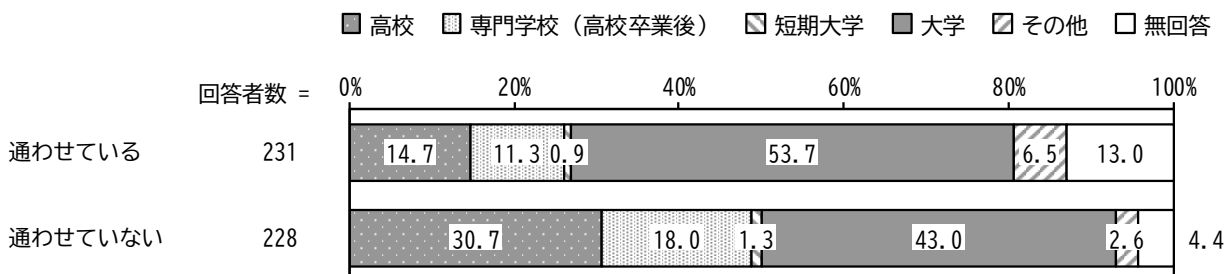
図表 86 可能だと思われる子どもの最終進学目標と世帯年収



【可能だと思われる子どもの最終進学目標（子どもの通塾別）】

子どもの通塾別にみると、『通わせている』で「大学」の割合が高く、『通わせていない』で『通わせている』に比べて「高校」「専門学校（高校卒業後）」の割合が高くなっています。（図表 87）

図表 87 可能だと思われる子どもの最終進学目標と子どもの通塾



【子どもについて悩んでいること（親の性別）】

親の性別にみると、母子家庭に比べて、父子家庭で「教育・進学」「しつけ」「身体の健康」「食事・栄養」「発達の課題」の割合が高くなっています。（図表 88）

図表 88 子どもについて悩んでいることと親の性別

単位：％

区分	回答者数 (件)	教育・進学	不登校	しつけ	就職	非行	身体の健康	心の健康	食事・栄養	発達の課題	子どもとのコミュニケーション	その他	特になし	無回答
母子家庭	438	57.5	10.5	19.4	14.2	4.3	18.9	30.4	18.7	16.2	15.5	4.3	15.5	8.2
父子家庭	35	62.9	11.4	28.6	14.3	2.9	25.7	25.7	28.6	22.9	17.1	2.9	2.9	5.7

## 8 お困りのことについて

### 【困っていること（親の性別）】

親の性別にみると、父子家庭に比べて、母子家庭で「仕事」「住まい」「心の健康」「親族の健康・介護」の割合が高く、母子家庭に比べて、父子家庭で「家事」「身体の健康」「人間関係（地域・友人・家族・異性等）」の割合が高くなっています。（図表 89）

図表 89 困っていることと親の性別

単位：％

区分	回答者数 (件)	子育て	家計	仕事	住まい	家事	身体の健康	心の健康
母子家庭	540	31.3	58.1	28.9	32.6	16.3	26.5	22.4
父子家庭	38	34.2	60.5	21.1	21.1	28.9	31.6	15.8

区分	親族の健康・介護	社会からの孤立	人間関係（地域・友人・家族・異性等）	自身の結婚問題	自分が倒れた時の子どもの将来	その他	特になし	無回答
母子家庭	15.9	2.6	9.4	3.7	52.8	2.6	9.3	2.0
父子家庭	10.5	5.3	15.8	7.9	52.6	2.6	7.9	0.0

## IV ヒアリング調査の概要

### 1 調査の目的

今後のひとり親家庭の支援施策策定の基礎資料として、より具体的な現状やニーズを把握するものです。

### 2 調査対象

荒川区在住の児童育成手当受給者（障害手当を除く）5名

### 3 調査方法

対面でのインタビュー方式

### 4 調査結果

#### （1）住まいについて

住まいについては、家賃が負担となっている家庭もある中、都営住宅にすでに住んでいる家庭は満足している傾向があり、現在申し込みを進めている家庭もあります。また、親との同居を検討している家庭があるほか、居住環境の改善や子どもが通っている学校へ引き続き通うことのできる場所等が必要だといった声があります。

#### （2）仕事について

仕事については多岐にわたり、不動産売買や医療事務、在宅ワークのほかに介護や契約社員としての勤務などが挙げられます。手取りの収入は10万円～17万円程度で、ボーナスが支給される場合もあれば、働いていない家庭も存在します。一部では資格取得によるキャリアアップや転職を視野に入れている家庭がある一方、現状の働き方の制約や収入面での課題に悩む声が聞かれます。

#### （3）今の働き方で改善したいことについて

働き方の改善点については、現状の勤務体系の見直しや福利厚生の充実を求める声があり、資格取得や社内ステップアップを目指している親もいます。一方で、家事や育児との両立が課題となり、効率的なサポートの必要性を感じている親もいます。特に土日の勤務や、資格試験のための勉強時間が十分に確保できないことに悩む場合が多く見受けられます。

#### （4）養育費について

養育費については、離婚調停や裁判、公正証書の取り決めにより各家庭で異なる金額が設定されています。支払いが滞りなく行われている場合もあれば、養育費が未定または受け取っていない家庭もあります。一部では弁護士を通じて遡った分の養育費を確保しているケースも見られます。

## (5) 親子交流について

親子交流については、その頻度や方法に差があるものの、月1～3ヶ月に1回程度の交流を実施する家庭が多い状況です。一部では子ども自身が交流を望まず、実施されていないケースもあります。また、親子交流支援団体等の仲介を利用している家庭も見られますが、交流の頻度や調整の他、費用負担がストレスになっているという声もあります。

## (6) 子どもの習いごとについて

習いごとについては、スポーツクラブや塾などに通わせる家庭がある一方で、経済的負担や子ども自身の意向から取り組めていない家庭もあります。独学で学びを進める子どももいます。

## (7) 子どもの将来に対する不安について

子どもの将来への不安については、教育や進学に関する課題から、障がいや発達特性まで幅広く存在しています。子ども自身が具体的な目標を持ち、学業に励んでいる事例も見られますが、子どもの将来における自立した生活に向けた不安等のケースもあります。

## (8) 困ったときの相談先の有無とひとり親同士交流の場があったら参加したいかについて

相談先等については、母子・父子自立支援員、児童相談所など区の相談機関を始め、訪問看護やママ友、実家の家族などを頼りにしている家庭が見られますが、中には頼れる相談相手がほとんどいない家庭もあります。また、ひとり親同士の交流については前向きな参加希望の声がある一方で、さまざまな理由から参加に抵抗を感じるという声もあります。

## (9) 家計のやりくりについて

家計のやりくりについては、収入や養育費を主に反映させながら、急な出費には貯金を充てて対応している家庭が多い状況です。しかしながら、家計をもっと楽にしたい、貯金を増やしたいという声が聞かれるほか、子どもの制服や習いごとなどにかかる出費が大きな負担となる家庭もあります。また、フードパントリーや地域の支援に助けられている家庭もあります。

## (10) その他の要望について

その他の要望については、自助努力と既存の支援に感謝しつつ、さらなる改善を求める声もあります。例えば、家事支援の充実や、転居する際の初期費用の補助、親子交流支援団体等を利用する際の費用の補助など、具体的な提案が挙げられています。また、父子家庭が参加できる交流の場の設置など、不安を軽減できる仕組みづくりにも期待が寄せられています。



荒川区  
ひとり親家庭等アンケート  
調査結果報告書

発行年月：令和7年12月

発行：荒川区 子ども家庭部子育て支援課  
ひとり親・女性福祉係  
〒116-8501

東京都荒川区荒川 2-2-3

電話：03-3802-4983